

日韓をめぐる現在・過去・未来

～日韓市民意識調査から～

世論調査部(社会調査) 河野 啓 / 原美和子

はじめに

2010年8月に日本が韓国を併合して100年となった(表1)。NHKと韓国の公共放送のKBSで共同の世論調査を同じ質問項目、同じ調査方法で行い、日韓両国の調査結果を比較分析し、広く両国民に伝えることを目的に調査を実施した。調査項目は、家族観、生活上の心配、生きがいなど基本的な生活態度、相手国の大衆文化接触度、お互いの国に対してどのような意識を持っているのか、日韓関係の今後などである。

NHKとKBSが共同で世論調査を実施するのは、初めてである。NHK、KBSとも報道や番組制作を含めたチームを形成し、会議やメールで意見交換を重ね、調査方法、調査日程、調査内容、公表日など、合意の上で調査を実施した。この調査結果は、KBS、NHKでそれぞれ、ニュース、討論番組、解説番組などで活用された。

ここでは、まず、サンプリング方法など調査の概要を報告する。その上で、調査結果をもとに、両国の人びとの生活、社会意識、ついで、相手国に対する見方について分析する。

なお、NHKでは、1991年、1999年に日本と韓国を対象とした面接調査を実施してきてい

る¹⁾。今回の調査には、できる限りそれらの調査の質問を取り入れているので、今回と共通する質問については、それらの調査結果も紹介していくこととする。

表1 年表

年	内 容
1905	日本：韓国を保護国化
1909	伊藤博文、アン・ジュンゲン(安重根)により射殺
1910	日本による韓国併合
1945	第2次世界大戦終了、朝鮮光復(解放)
1948	大韓民国樹立、イ・スンマン(李承晩)政権発足 北朝鮮樹立、キム・イルソン(金日成)総書記就任
1950	朝鮮戦争勃発
1951	サンフランシスコ平和条約
1953	朝鮮戦争休戦
1965	日韓基本条約締結(日韓外交正常化)
1973	キム・デジュン(金大中)拉致事件
1980	光州事件
1984	チョン・ドファン(全斗煥)大統領訪日 昭和天皇、「不幸な過去」遺憾と発言
1987	韓国：全国38市郡で大規模デモ(民主抗争) 大韓航空機爆破事件
1988	ソウル五輪開催
1991	従軍慰安婦と名乗り出、日本政府を提訴
1993	北朝鮮、核開発疑惑浮上 韓国：日本人の観光ビザ免除
1995	村山首相談話(植民地支配への反省とお詫びの表明)
1997	韓国：金融危機 北朝鮮キム・ジョンイル(金正日)総書記就任 キム・デジュン(金大中)政権発足
1998	日本大衆文化の段階的開放措置(～2004第4次)
1999	日本映画「Love Letter」韓国公開
2000	韓国映画「シユリ」日本公開 南北首脳会談
2001	「新しい歴史教科書」検定合格に韓国反発 小泉首相靖国神社参拝
2002	日韓共催 W 杯 小泉首相訪朝、金正日総書記「日本人拉致」謝罪
2003	「冬のソナタ」日本のBSで放送 韓流ブーム
2004	韓国：地上波での日本映画、CATVでの日本のドラマ放映が可能
2005	鳥根県「竹島の日」制定 日本：韓国人の観光ビザ免除
2008	イ・ミョンバク(李明博)政権発足
2009	日本：民主党政権発足
2010	韓国哨戒艦沈没事件(3月26日)

調査の概要

調査時期、調査方法、調査対象は両国とも同じであるが、調査相手の抽出については、異なっている(表2)。日本のサンプリングは住民基本台帳から個人を抽出しているが、韓国では、住民基本台帳や名簿を使うことができない。かつては、韓国でも班(韓国の伝統的な地域単位)や村で管理している世帯名簿を閲覧できたが、現在は不可能である。

そこで、韓国ではどのようなサンプリングがなされたかみておく。

調査相手の抽出方法は、比例割当系統抽出によるランダムウォークサンプリングである。国民全体の比率を反映するため、あらかじめ、国勢調査により、地域/性/年齢別の割当数を定めておいた。

第1段階の調査地点の抽出では最大の行政ユニットである特別市と道に、人口数に比例してサンプル数を割り当てた。

第2段階では、最終的なフィールドワークの地点である班や村を系統抽出した。

第3段階では、調査員は、第2段階で抽出した地点を訪問し、その世帯を等間隔に訪問した。

第4段階で、調査員は、世帯の中から20歳以上で、誕生日が一番早く来る人を、調査相手として選んだ。

調査有効数の70%まで調査後、地域ごとに、目標標本設計で不足した性/年齢別該当回答者を探して調査した。

なお、地点を決めるところまでは、層化無作為抽出であるが、調査相手を選択する段階で割り当て法によっているので、ランダムサンプリングとは言えないが、日韓の調査結果の比較にあたっては、ランダムサンプリングとして、差の検定を使用している。

表2 調査の概要

調査時期	2010年6月26日(土)～7月4日(日)	
調査方法	個人面接法	
調査対象	全国20歳以上の国民(韓国は済州島を除く)	
調査相手	日本	住民基本台帳から層化無作為2段抽出 2,400人(12人×200地点)
	韓国	層化3段抽出 (調査相手の抽出は誕生日法、割当法) 1,000人(10人×100地点)
調査有効数(率)	日本	1,473人(61.4%)
	韓国	1,000人

1. 生活や社会意識からみる日本と韓国

(1) 生活目標と市民意識

はじめに、生活目標や市民意識といった基本的な特徴をみていく。

まず日々の生活における目標について、以下の4つから、自分にいちばん近いものを1つ選んでもらった。

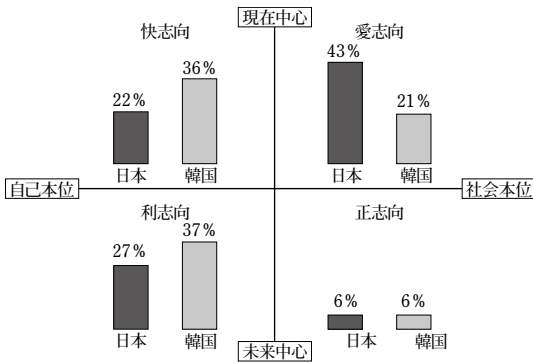
- その日その日を、自由に楽しく過ごす(快志向)
- しっかりと計画をたてて、豊かな生活を築く(利志向)
- 身近な人たちと、なごやかな毎日を送る(愛志向)
- みんなと力を合わせて、世の中をよくする(正志向)

この4つは、①現在に重点をおくのか、それとも未来におくのか、②自己に重点をおくのか、それとも他者に重点をおくのか、という2軸によって4つの価値観を類型化し、この価値類型に対応する目標として具体化したものである²⁾。

日本で最も多いのが「愛志向」で43%、韓国は、「快志向」(36%)と、「利志向」(37%)が拮抗し、「愛志向」は日本の半分程度である。「正志向」はどちらの国も6%と少ない(図1)。

さらに、前述の2軸の性格によって分類すると、「現在」中心(「快志向」「愛志向」)か、「未来」中心(「利志向」「正志向」)かという点では、日本、韓国ともに「現在」中心の人が多い。一方「自己」本位(「快志向」「利志向」)か「社会」本位(「愛志向」「正志向」)かという点でみると、

図1 生活目標(全体)



韓国で「自己」本位が7割と多いのが特徴的である。

また男女年層別でみると、日本は、男女どの年層でも、「愛」志向が最も多い。特に女性50代まででは、2人に1人が「愛」志向である。一方韓国では、「快」志向は、年層による違いは少ないが、「利」志向は、男性30代までは2

人に1人と多い(図2)。

市民意識については、社会への関わり方や私生活への重きの置き方などにに基づき4つの生き方を設定して、自分に最も近いものを1つ選んでもらった(図3)。日本は、「自分の生活とのかかわりの範囲で自分なりに考え、身近なところから世の中をよくするように心がけている(私生活市民)」が46%と突出している。一方韓国は、「私生活市民」と「決められたことには従い、世間に迷惑をかけないように心がけている(協調私民)」という人がそれぞれ30%前後である。それ以外の、「社会のために必要なことを考え、みんなと力を合わせ、世の中をよくするように心がけている(公共市民)」と「自分や家族の生活を充実させることを第一に考え、世間のことにはかかわらないよう心がけている(私民)」という人の割合は、どちらも韓国のほうが高く、いずれも日本の2倍近い。

図2 生活目標(男女年層別)

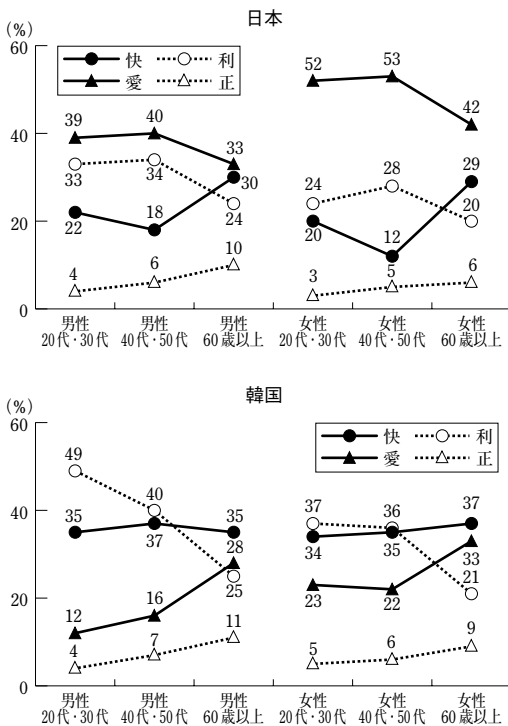
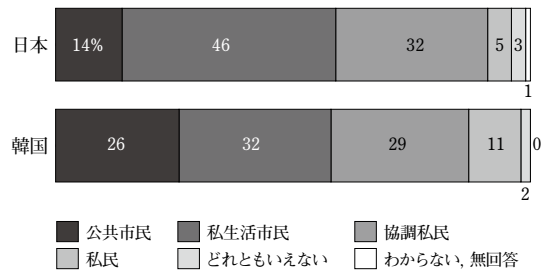


図3 市民意識(全体)



(2) 自国に対する意識

自分の国に対する誇りや愛国心の位置づけなどについては、両国でどのような特徴がみられるのだろうか。

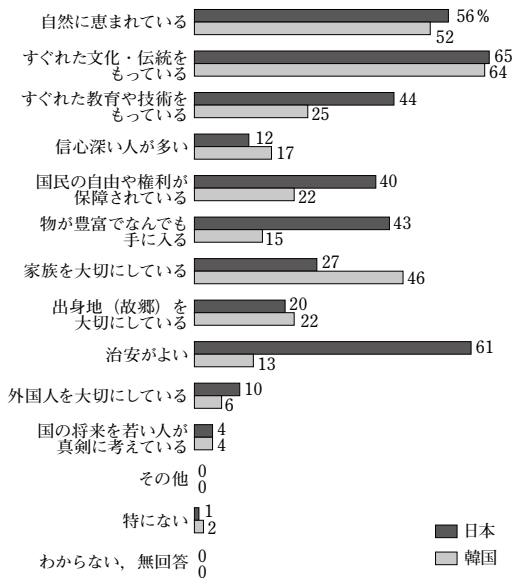
自国の誇り～“すぐれた伝統・文化”は日韓共通～
自分の国のどのようなところに誇りを持っているのか、11項目の中からいくつでも答えてもらっ

たところ、「すぐれた文化・伝統をもっている」が日韓どちらでも最も多く選ばれている(図4)。この他、日本では、「治安がよい」、「自然に恵まれている」が、韓国では「自然に恵まれている」、「家族を大切にしている」が多く選ばれている。

日韓で結果が大きく異なる項目は、「すぐれた教育や技術をもっている」(日本44%：韓国25%)、「国民の自由や権利が保障されている」(日本40%：韓国22%)、「物が豊富でなんでも手に入る」(日本43%：15%)、「家族を大切にしている」(日本27%：韓国46%)、「治安がよい」(日本61%：韓国13%)などである。

また、1人が答えた数の平均値は、日本が3.83、韓国で2.86と、日本のほうが、だいたい1項目分ほど多い。

図4 自国の誇り(いくつでも、全体)



なお、この質問は、1991年の調査でもおこなっていて、比較が可能である(表3)。日本では、「物が豊富でなんでも手に入る」はやや減少したが(47%→43%)、それ以外の項目は、すべて増加した。韓国では、「自然に恵まれてい

表3 自国の誇り(いくつでも、時系列、全体)

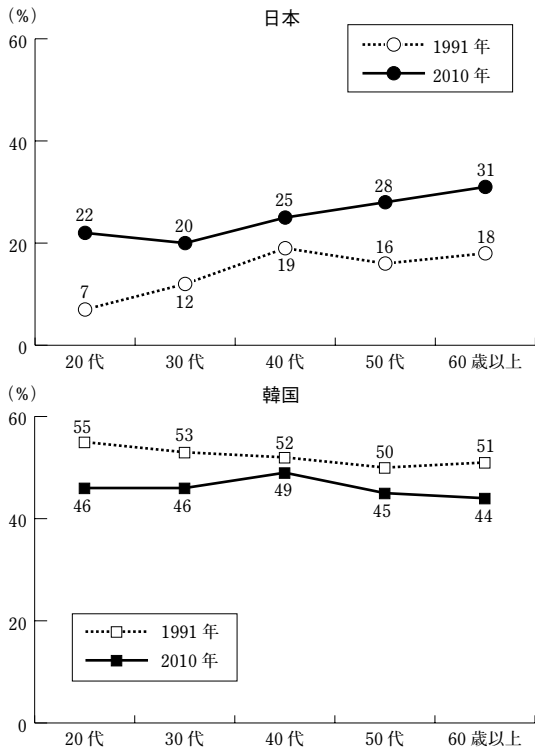
	日本		韓国	
	1991年	2010年	1991年	2010年
自然に恵まれている	29	< 56	23	< 52
すぐれた文化・伝統をもっている	44	< 65	44	< 64
すぐれた教育や技術をもっている	39	< 44	10	< 25
信心深い人が多い	10	< 12	20	> 17
国民の自由や権利が保障されている	27	< 40	9	< 22
物が豊富でなんでも手に入る	47	> 43	14	> 15
家族を大切にしている	15	< 27	53	> 46
出身地(故郷)を大切にしている	11	< 20	36	> 22
治安がよい	57	< 61	1	< 13
外国人を大切にしている	4	< 10	11	> 6
国の将来を若い人が真剣に考えている	3	< 4	13	> 4

※数字の間の不等号は、両側の数字を比較した検定結果(信頼度95%)である。左側が高ければ>、低ければ<で示した。

る」が23%から52%と大幅に増加したほか、「すぐれた教育や技術をもっている」(10%→25%)、「治安がよい」(1%→13%)、「国民の自由や権利が保障されている」(9%→22%)など、1991年当時は少なかった項目で増加したものが目立つ。一方で、1991年には最も多くの人誇りと考えていた「家族を大切にしている」(53%→46%)のほか、「出身地(故郷)を大切にしている」(36%→22%)は減少している。

このうち、日本で増加し、韓国で減少した「家族を大切にしている」の変化について、それぞれ年層別に比較した(図5)。日本では、40代をのぞくすべての年層で増加し、韓国では、20代で減少している。この結果、1991年から2010年にかけて、日本と韓国の差はやや縮まってはいるが、全体結果、年層別どちらについても、韓国が上回っていることには変わりはない。

図5 自国の誇り「家族を大切にしている」(時系列,年層別)



※韓国の1991年の結果で、60歳以上は、61人と少ないため参考値である

なお、1991年と2010年の結果について、それぞれ順位相関係数を求めたところ、1991年には-0.16、2010年には0.6であった。これで見ると、両国の回答の順位は、1991年にはあまり共通性がみられなかったが、2010年は、共通性が高くなったものと考えられる。

ナショナリズム

(自)国に対する意識については、「日本(韓国)に生まれてよかった」、「日本人(韓国人)は他の国の人と比べて、すぐれた素質をもっている(以下、「すぐれた素質」)、「愛国心は国民のいちばん大切な条件である(以下、「愛国心はいちばんの条件」)の3つについて、そう思うかどうかを尋ねた。

まず「日本(韓国)に生まれてよかった」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」

を合わせた『肯定』する人(以下同様)は、日本で98%、韓国で91%で、どちらも非常に多い。ただしその内訳は大きく異なり、「そう思う」と、強く肯定する人は、日本では85%であるのに対し、韓国では36%である。この傾向は、男女年層別にみても同様である(図6)。

「すぐれた素質」については、『肯定』する人は、日本(87%)と韓国(91%)とどちらも非常に多いが、「そう思う」という人の割合は、日本(46%)のほうが韓国(38%)より高い。「そう思う」という人の割合について、男女年層別で見ると、日本は、高い年層ほど、「そう思う」人が多いのに対し、韓国は、年層による差はあまりみられない。その結果、男女ともに60歳以上の層で、日本が韓国を上回っている(図7)。

一方、「愛国心はいちばんの条件」については、『肯定』する人は韓国(94%)が日本(79%)

図6 ナショナリズム「日本(韓国)に生まれてよかった」

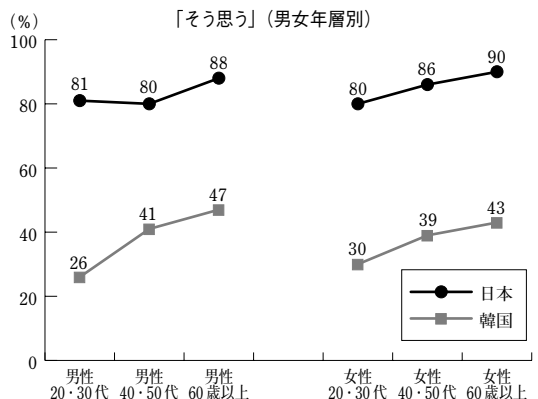
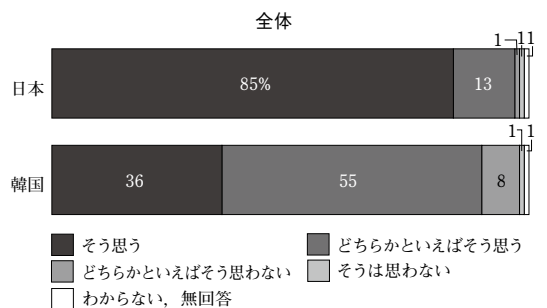


図7 ナショナリズム「すぐれた素質」

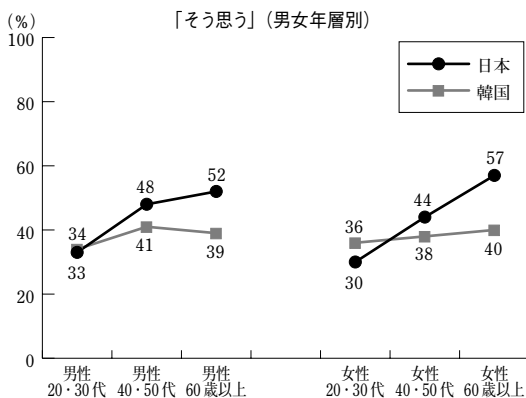
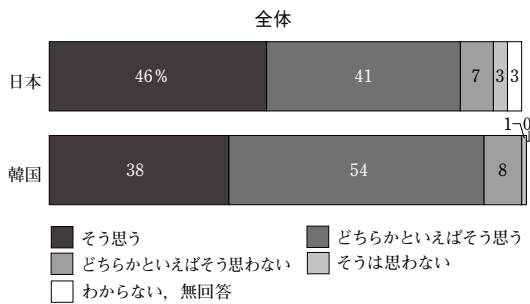
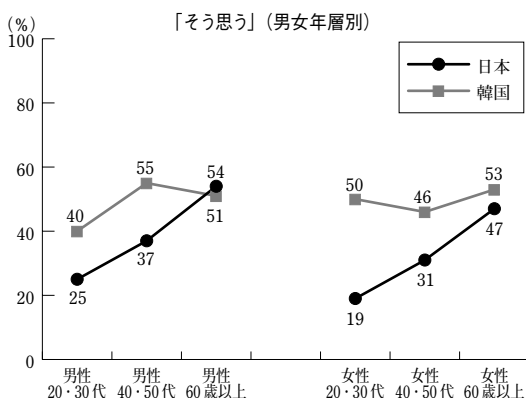
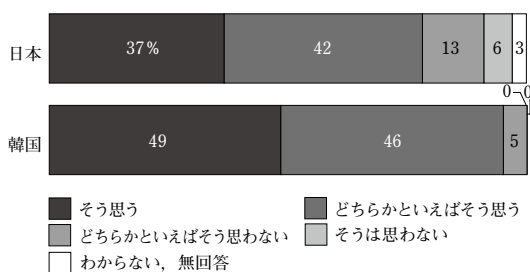


図8 ナショナリズム「愛国心はいちばんの条件」



を大きく上回る。「思う」人について男女年層別で比較すると、男女ともに50代以下の年層で違いが現れている(図8)。

(3) 暮らしや仕事に関わる意識

日ごろの暮らしや仕事に関する価値観については、日韓で共通する点も多い一方、「理想の仕事」の条件には違いがみられる。

生活上の心配

～韓国で高い「仕事上のストレス」～

日常生活に関わる8つの項目について、それぞれの程度心配かを尋ねた。「かなり+少し」心配だという人を合わせた『心配』という人(以下同様)の割合は、日韓どちらも「自分や家族の健康」が8割を超え最も多く、その後に「自分の老後」が続く。また日韓で結果に差がないのは「自分や家族の健康」だけで、「自分の老後」「家族の介護」が『心配』という人の割合は日本のほうが高い。一方それ以外の「失業やリストラ」「年取や家計」「仕事上のストレス」など

図9 生活上の心配

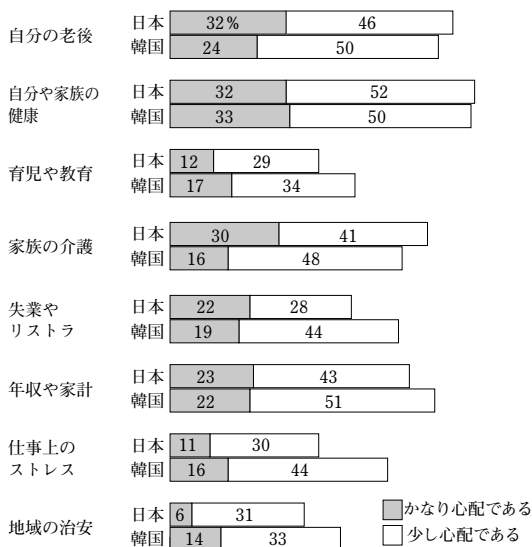
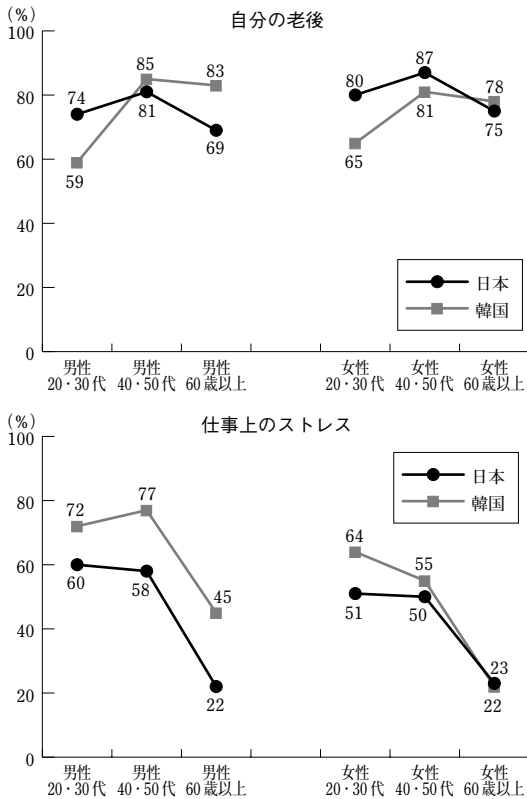


図10 生活上の心配
(かなり+少し心配である, 男女年層別)



の5項目は韓国のほうが『心配』する人の割合が高い(図9)。なお「かなり心配」だけを比較した場合も、傾向は変わらない。

男女年層別にみると、「自分の老後」を、『心配』する人は、日本では、60歳以上の年層で、男女ともに、それより若い年層に比べて少なくなるが、韓国の場合はそうした傾向はなく、40・50代と変わらない。実際に「老後」を迎え

た(迎える)人で、老後に対する意識が異なっているようだ。また「仕事上のストレス」では、男女で異なった傾向がみられる。男性は年層に関わらず、また女性は20・30代で、韓国のほうが『心配』する人の割合が高い(図10)。

さらに、「失業やリストラ」「仕事上のストレス」という、仕事に関わる2項目について、有職者に限って、年層を3つに区分して結果を比較した³⁾(表4)。「失業やリストラ」では、40・50代以外のすべての層で、また「仕事上のストレス」では年層に関わらず、韓国のほうが『心配』という人の割合が高い。特に韓国の20・30代では、『心配』という人は2項目とも8割近くに達している。

理想の仕事

～評価が分かれる「働く時間の長さ」～

このように、仕事上のストレスや、失業の心配のような、働くことに関する心配は、日本よりも韓国のほうでより多く感じられている。それでは「仕事」そのものについての考え方はどうなのだろうか。どんな仕事がいちばん望ましいと思うか、「高い収入が得られる仕事(収入)」など7つの項目から1つ選んでもらった(図11)。

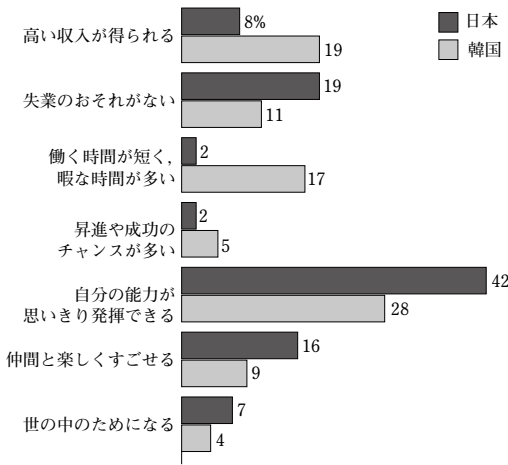
「自分の能力が思いきり発揮できる仕事(能力)」が、日韓どちらでも多く、特に日本では、42%と半数近い。しかしそれに続くものは、日本では「失業のおそれがない仕事(失業)」

(19%)「仲間と楽しくすごせる仕事(仲間)」(16%)が続くのに、韓国では「高い収入が得られる仕事(収入)」(19%)「働く時間が短く、暇な時間が多い仕事(時間)」(17%)で、共通点は少ない。

表4 生活上の心配(「かなり」+「少し」心配, 有職者, 年層別)

(%)	全体		20・30代		40・50代		60歳以上	
	日本	韓国	日本	韓国	日本	韓国	日本	韓国
失業やリストラ	58	< 69	63	< 75	62	68	43	< 58
仕事上のストレス	53	< 71	56	< 78	58	< 71	37	< 53
	(848人)	639人	266人	244人	392人	317人	190人	78人

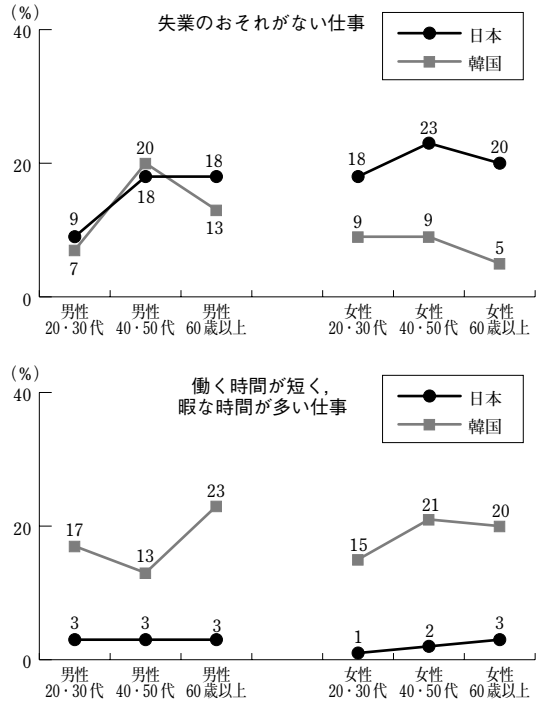
図 11 理想の仕事 (全体)



この結果を、男女それぞれ、年層を3つに区分して比較した(表5)。どの年層でも「能力」が上位に入るのはほとんど共通しているが、大きく異なっているのは、「時間」である。さらにこのうち、「失業」と「時間」について男女年層別に示したものが図12である。「失業」は男性では日韓での差はないが、女性ではすべての層で日本のほうが、また「時間」は、男女すべての年層で韓国のほうが上回っている。

OECD Employment Outlookによると、労

図 12 理想の仕事 (男女年層別)



働者1人あたりの年間総労働時間(2008年)は、日本が1,772時間、韓国が2,556時間である。どちらの国も、世界的には労働時間が長いグループに属するが、韓国の労働時間は特に突出している。先にみた生活上の心配の中で、

「仕事上のストレス」が「心配」という人が韓国で多いことも踏まえて考えると、短時間で暇な仕事を理想だという人が多いことには、こうした実態も反映されている可能性も考えられる。

表 5 理想の仕事 (割合の多い順, 男女年層別)

	男性 20・30代		男性 40・50代		男性 60歳以上	
	日本	韓国	日本	韓国	日本	韓国
1	能力 (43)	能力 (32)	能力 (47)	能力 (24)	能力 (41)	時間 (23)
2	仲間 (18)	収入 (22)	失業 (18)	収入 (24)	失業 (18)	仲間 (17)
3	収入 (16)	時間 (17)	収入 (13)	失業 (20)	仲間 (15)	収入 (16)
4	失業 (9)	昇進 (9)	仲間 (11)	時間 (13)	貢献 (11)	失業 (13)
5	貢献 (6)	仲間 (9)	貢献 (5)	昇進 (8)	収入 (6)	能力 (12)
6	昇進 (4)	失業 (7)	時間 (3)	仲間 (7)	時間 (3)	貢献 (7)
7	時間 (3)	貢献 (3)	昇進 (2)	貢献 (3)	昇進 (1)	昇進 (5)

	女性 20・30代		女性 40・50代		女性 60歳以上	
	日本	韓国	日本	韓国	日本	韓国
1	能力 (48)	能力 (41)	能力 (44)	能力 (26)	能力 (35)	時間 (20)
2	失業 (18)	収入 (17)	失業 (23)	収入 (22)	失業 (20)	能力 (19)
3	仲間 (16)	時間 (15)	仲間 (17)	時間 (21)	仲間 (18)	仲間 (12)
4	収入 (9)	失業 (9)	収入 (5)	失業 (9)	貢献 (8)	収入 (11)
5	貢献 (5)	仲間 (9)	貢献 (5)	仲間 (8)	収入 (4)	貢献 (7)
6	昇進 (2)	昇進 (4)	時間 (2)	貢献 (5)	時間 (3)	失業 (5)
7	時間 (1)	貢献 (1)	昇進 (2)	昇進 (2)	昇進 (0)	昇進 (0)

(4) 家庭と男女のありかた

家庭と男女のありかたについては、女性が職業を持ちつづけることや、夫婦で家事を分担することについて肯定的な人が、どちらの国でも多数を占めるなど、男女平等

意識の浸透がうかがえる。しかし子どもに求める教育程度については、両国で考え方の相違もみられる。

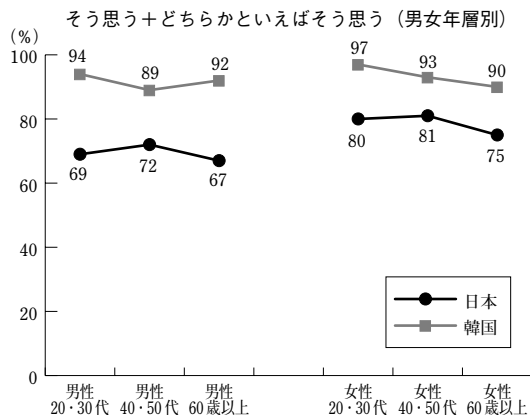
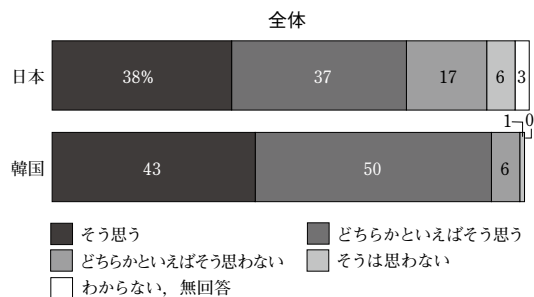
家庭の役割～どちらの国でも高い

「女性の就労」意識と、「家事分担」意識～

家庭における価値観を捉えるため、以下の4項目について、そう思うかどうかを尋ねた。

- A「女性は結婚して子どもが生まれても、職業を持ちつづけていたほうがよい」
- B「女性は結婚したら、自分自身のことよりも夫や子どもなど家庭中心に生活したほうがよい」
- C「結婚しても、必ずしも子どもをもたなくてよい」
- D「妻が働いていれば、夫も家事や育児を平等に分担するのは当然だ」

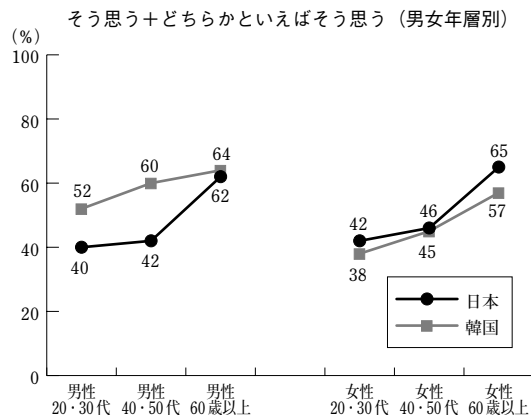
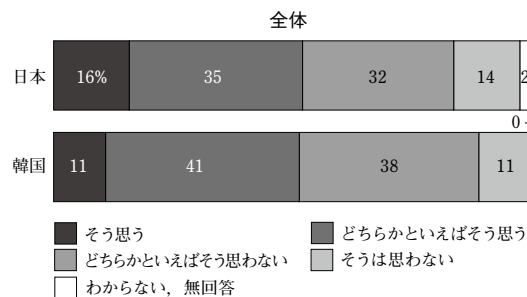
図13 「女性は結婚して子どもが生まれても、できるだけ職業を持ちつづけていたほうがよい」



まずAについては「そう思う」という人、それに「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』人どちらも韓国のほうが多い。女性は結婚して子どもが生まれても仕事を続けるほうがよい、という考え方はどちらの国でも多数派であるが、特に韓国では顕著で、『そう思う』人は、韓国では9割を超える。男女年層別に比較しても、すべての層で韓国のほうが高い(図13)。

それでは、家庭の中での女性の役割はどう考えられているのだろうか。Bについて、『そう思う』、つまり、女性は結婚したら家庭中心の生活をするのがよい、と考える人は、日韓ともに51%で、どちらの国も考え方は二分されている。男女年層別には、男女ともに、年齢が高い層のほうが、『そう思う』人の割合が高い(図14)。

図14 「女性は結婚したら、自分自身のことよりも夫や子どもなど家庭中心に生活したほうがよい」



さらに、家庭内での家事分担についての考え方であるDについて『そう思う』人、つまり、共働きであれば家事育児を平等に分ちあうことが当然だと考える人が、どちらの国でも8割を超え、大勢を占めている。ただし「そう思う」と強く肯定する人は、日本で48%、韓国で35%と差があり、肯定する程度は異なっている。男女年層別では、どちらの国も、年齢が低い層のほうが『そう思う』人が多いのは共通である。特に韓国の女性20・30代は96%で、平等意識が非常に高い(図15)。

Cの「結婚しても必ずしも子どもをもたなくてよい」という意見については、『そう思う』人は、日本が38%、韓国が30%とどちらの国でも少数派である。また男女別では、男性では日韓で差がないが、女性では日本のほうが多い(日

本40%、韓国30%)。男女年層別にみると、『そう思う』人はどちらの国でも若い年層のほうが多いが、男性40・50代と、女性40歳以上の層で、日本のほうが韓国より多い(図16)。

子どもの教育

～韓国は性別に関わらず強い高学歴志向～

自分の子ども(中学生)に受けさせたい教育程度について、子どもが男の子の場合、女の子の場合それぞれについて尋ねた。

まず、男の子の場合、受けさせたい教育程度は、「大学まで」が、日韓ともに最も多く、高学歴志向は共通している。ただし、「大学院まで」と、より高いレベルを望む人は、日本は6%だが、韓国は22%で、韓国では、大学以上のレベルの教育を希望する人が95%と大半を占め

図15 「妻が働いていれば、夫も家事や育児を平等に分担するのは当然だ」

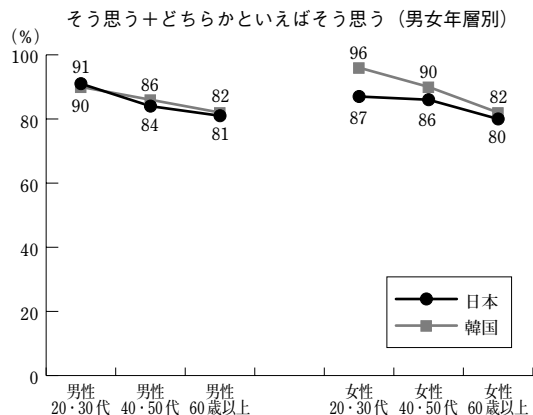
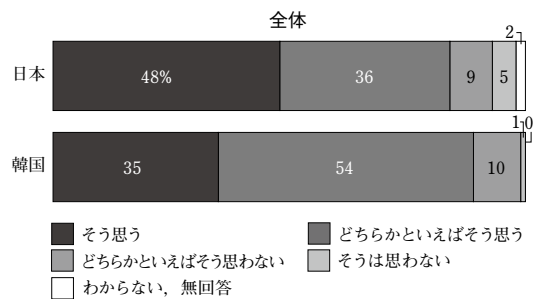
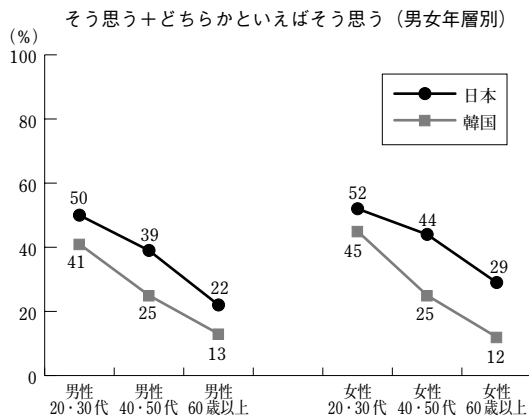
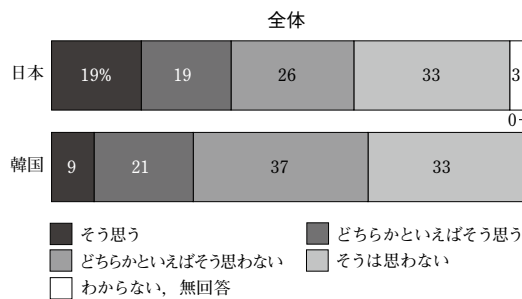


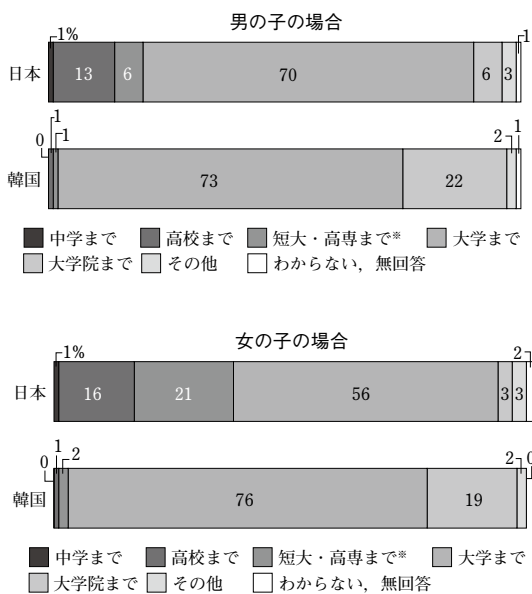
図16 「結婚しても、必ずしも子どもをもたなくてよい」



る（日本は77%）。

一方、子どもが女の子の場合「大学まで」「大学院まで」どちらのレベルにおいても、韓国のほうが希望する人が多い。日本でも、大学以上の教育を求める人は59%と6割近くで、決して少ないわけではないが、韓国では、男の子の場合と同様95%と圧倒的多数である（図17）。

図17 子どもの教育（全体）



※：韓国では「専門大学」と尋ねている。（以下同様）

さらに、男女差、つまり、子どもが男か女かによって、求める教育レベルに差をつけているのかどうかをみた（表6）。子どもが男であっても女であっても同レベルの教育を希望する人は、全体結果、男女年層別、学歴別のどれで比較しても韓国のほうが多い。

このように、子どもの教育については、①高学歴志向、②男女で差をつけない、という韓国の特徴が際立っている。

韓国で、大学への進学率が大幅に上昇したのは、1980年代以降である。韓国の家族事情

表6 子どもの教育
（子どもの性別に関わらず同じ教育程度を希望する人、男女年層、学歴別）

(%)	全体	男女年層					
		男性 20・30代	男性 40・50代	男性 60歳以上	女性 20・30代	女性 40・50代	女性 60歳以上
日本	72	70	80	70	73	72	70
韓国	92	90	92	92	94	94	91

(%)	全体	学歴			
		中学校	高校	短大 高専	大学 大学院
日本	72	69	69	72	83
韓国	92	93	92	93	91

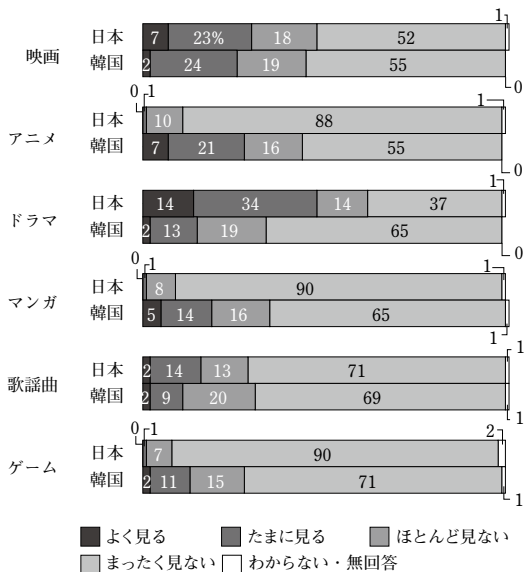
に詳しい春木育美は、この要因について、家計所得の増大に伴い、大学進学費用の負担能力が高まった一方、少子化が進んだことで、多額の教育投資を少数の子どもに集中することが可能になったことを指摘している⁴⁾。これが、前に述べたような特徴につながったものと考えられる。一方日本では、就職の難しさ、少子化という面で考えれば韓国と状況は決して異なるものではない。しかし韓国の高学歴志向には及ばないうえ、子どもの性別による違いも、以前に比べ縮小の方向にあるとはいえ、現在でも依然として存在する⁵⁾。

2. 相手国の大衆文化への接触

日本と韓国における、互いの国の歌謡曲や映画、それにテレビ番組などの「大衆文化」の受容は、この10年あまりで大きく変貌した。

日本では、2003年にNHKの衛星放送で「冬のソナタ」が放送され一大ブームとなって以降、「韓流」ドラマは瞬間に普及し、いまや日本でテレビで放送されない日はないといってよいだろう。また韓国の歌謡曲も、K-POPとして独

図 18 相手国の大衆文化への接触 (全体)



立したジャンルとして定着するなど、韓国発の娯楽・文化がすっかり溶け込んでいる。一方韓国では、1998年以降、日本の大衆文化の受け入れが段階的に開始され、これまで海賊版などの形で流入していた日本のアニメやマンガなどが堰を切ったように普及している⁶⁾。

このように、互いの国の大衆文化の受容が進んできているとはいえ、その具体的な内容を見ると、両国での違いは大きい。

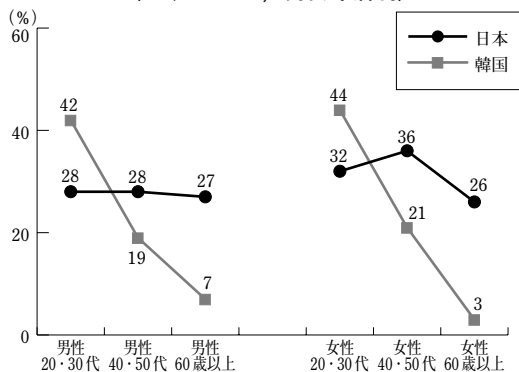
調査では、さまざまな大衆文化のうち、相手の国で制作された映画やアニメなど6つのジャンルについて接触頻度を尋ねた(図18)。

この6つのジャンルを、「よく+たまに」見るといふ人の割合の特徴によって、以下の3つに区分した。

①日韓で同程度～映画・歌謡曲～

「よく+たまに」見たり聞いたりする人の割合は、映画では日本が29%、韓国が26%、歌謡曲では日本が15%、韓国が11%で、大きな違いはみられない。ただしこれを男女年層別にみると、両国の傾向は必ずしも同じではない。「映

図 19 相手国の大衆文化への接触「映画」(よく+たまに、男女年層別)

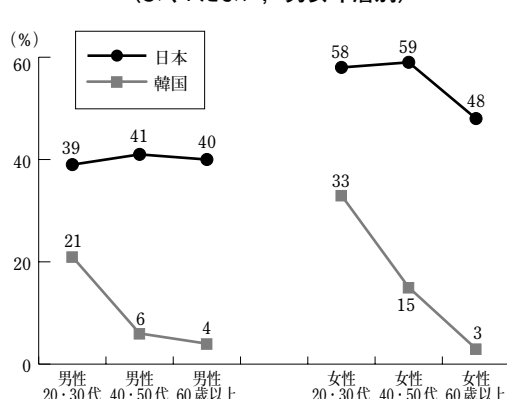


画」では、日本では年層による差があまりみられないのに対し、韓国では、20・30代の若い年層では男女ともに4割を超えている一方、高齢になるほど接触している人の割合が大きく減少している(図19)。

②日本が韓国を上回る～ドラマ～

ドラマを「よく+たまに」見る人の割合は、日本で48%と半数近くに達し、韓国の15%を大きく引き離している。この違いは、韓国では現在も、日本のドラマの放送が、衛星放送やケーブルテレビに限定されている、という事情も影響している可能性もある。さらにこれを男女年層別にみると、「よく+たまに」見る人は、日本の女性で多く、特に、50代までの女性では6割

図 20 相手国の大衆文化への接触「ドラマ」(よく+たまに、男女年層別)

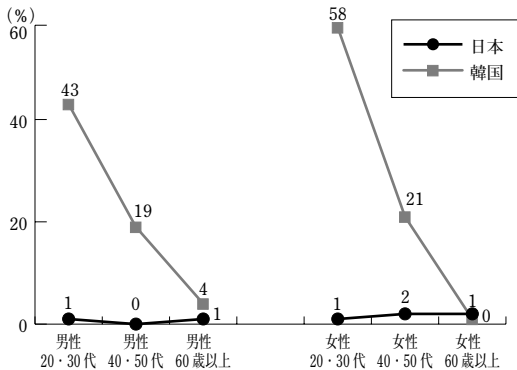


近い。男性でも、日本はどの年層でも4割程度で、男女すべての年層で日本が韓国を上回っている(図20)。

③韓国が日本を上回る～アニメ・マンガ・ゲーム～

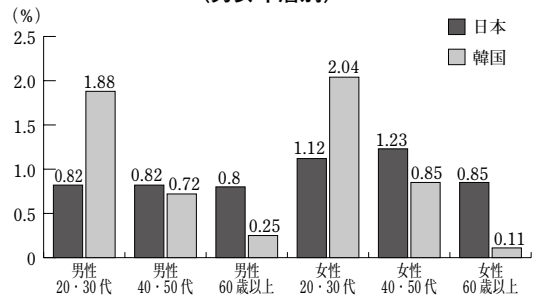
韓国が日本を大きく上回っているものが、アニメやマンガ、ゲームである。日本では、どれも1%程度とほとんどいないのに対して、韓国では、アニメが29%、マンガ19%、ゲーム13%である。ただし、これらに親しんでいる年層は非常に限定的である。たとえば、アニメについて「よく+たまに見る」人は、20・30代では非常に多く、女性では58%と6割近く、男性では20・30代で43%だが、それ以上の年層になると大きく下がっている(図21)。この傾向は、マンガやゲームでも同様である。

図21 相手国の大衆文化への接触「アニメ」(よく+たまに、男女年層別)



また、大衆文化への接触の特徴を総合的にみるために、「よく+たまに」接触していると答えたジャンルの数を合計して、調査相手数で割った平均値を計算したところ、日本で0.95、韓国で1.13であった。これを男女年層別に比較したのが図22である。韓国では、日本に比べて、年層による接触の有無の違いが大きく、60歳以上の高齢層では、親しんでいる人がほとんどいないことがわかる。

図22 相手国の大衆文化への接触平均(男女年層別)



3. 日韓両国をめぐる意識 ～両国の差とその背景～

次に日韓両国民がお互いをどう感じ、どう見ているかをみていく。これまでの調査でも両国民を見る目がかかなり異なっていることが明らかになってきたが、それはどう変化したのだろうか。そして変化したとすればどのような背景であったのだろうか、調査結果から考えていきたい。

(1) 日本、韓国のイメージ

相手国への関心、日本が上回る

まず、両国の国民はお互いの国にどの程度関心があるのだろうか。「(とても+ある程度)関心がある」人は、日本は57%で韓国48%に比べ多い(図23)。

図23 相手国への関心(全体)

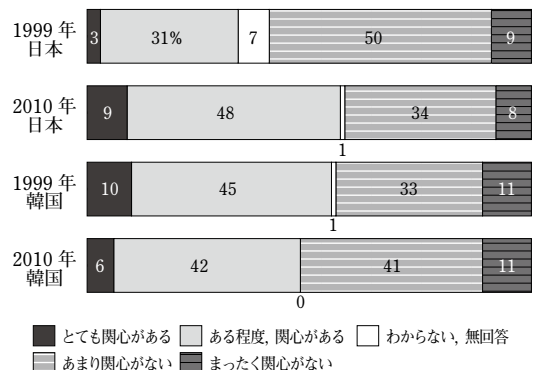
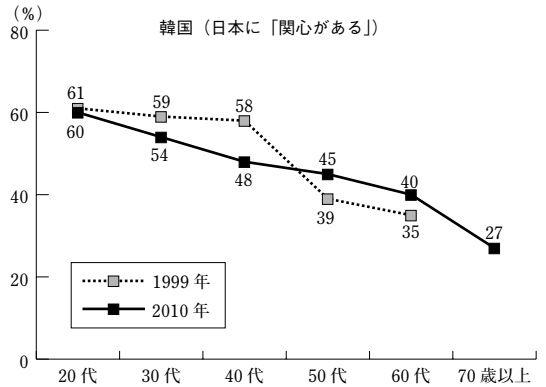
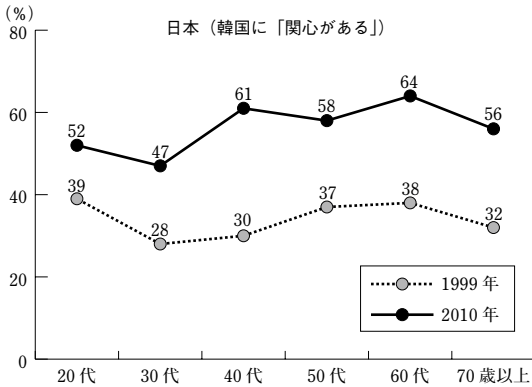
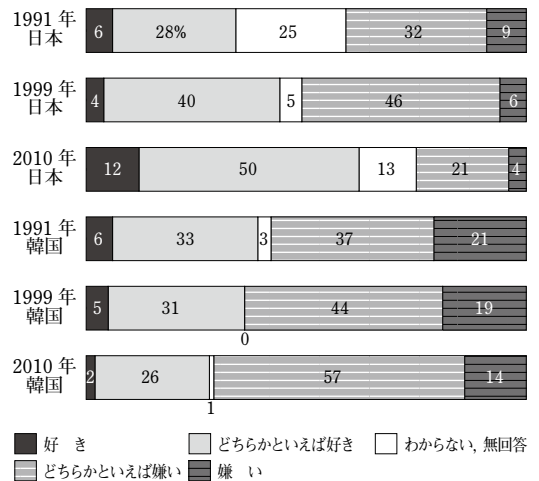


図 24 相手国への関心（「とても+ある程度）関心がある」，年層別）



およそ10年前の1999年の調査では、「（とても+ある程度）関心がある」は、韓国55%、日本34%で韓国の方が上回っていたが、日本が大幅に増加し、逆に韓国では減少し、日本と韓国の関係は逆転している。年層別には、日本は、40代以上で関心が高くなるが、韓国では、逆に年齢が若いほど関心が高い。年層別の変化をみると、「関心がある」人は99年と比べ日本はどの層でも増えており、なかでも40代以上の増加が大きい。韓国では、40代で関心が低下している（図24）。

図 25 相手国好き・嫌い（全体）



韓国が好きな日本人，日本が嫌いな韓国人

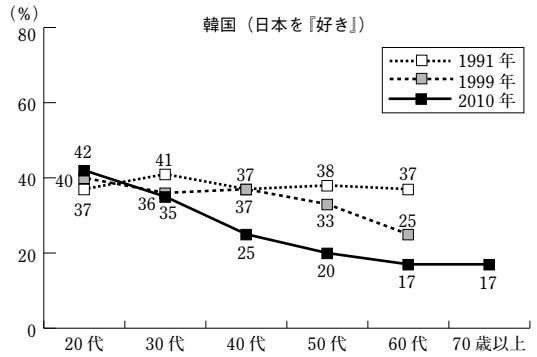
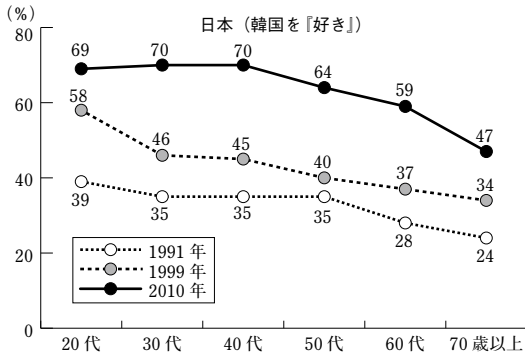
日本で韓国への関心が高まったことに合わせて、韓国への好感も増加している。「韓国（日本）が好きか、嫌いか」については、日本は「好き」12%、「どちらかといえば好き」50%で、合わせて『好き』が62%に対し、韓国は「嫌い」14%、「どちらかといえば嫌い」57%で、合わせて『嫌い』が71%と多数である。日韓で『好き』、『嫌い』が対照的な結果となった。

91年，99年，2010年の時系列（図25）でみると、日本は、91年は『嫌い』が『好き』より多かったが、99年では『好き』も『嫌い』も増加し、

2010年では『好き』が多数となった。一方、韓国は、91年には『嫌い』が58%と過半数であったが、99年，2010年と更に増加している。ただ、韓国の『嫌い』の内訳をみると、「嫌い」はむしろ減っていて、「どちらかといえば嫌い」が増え『嫌い』の8割と大きな位置を占めている。

99年と比べ、日本は30代から60代にかけての中高年層で『好き』が大幅に増えたが、韓国は、40代，50代で『好き』が減少した。韓国の20，30代の若者では、3回の調査結果がほぼ重なっており、年層により意識の変化に違いがみられる（図26）。

図 26 相手国を『好き(どちらかといえば含む)』(年層別)



プラスイメージに変化した日本人の韓国観

次に、より具体的にお互いの国および人びとをどう感じているか、イメージで回答してもらった。まず、お互いの国に対しては「言葉で言い表わすとしたら」、日本の韓国については「伝統的」38%、「繁栄」27%、「友好」25%に対し、韓国の日本については「保守的」39%、「清潔な」34%、「伝統的」30%と違いがみられる(図27)。

99年の調査と比べると、韓国の日本イメージ上位3項目は変わらないが、「民主的」、「繁栄」、「清潔」などといったプラスイメージの項目で減少している。日本の韓国イメージは99年の2位「保守的」、3位「閉鎖的」がいずれも減少し、変わって「繁栄」「友好」が増加し、プラスイメージに変化している。

また、「繁栄」は韓国イメージで大きく増加し、逆に日本イメージでは減少しているが、2007年(世界金

融危機前)の経済成長率は5.1%と成長が続く韓国に対し、日本は2.4%で低成長が続いているという経済状況を反映したものと見えよう。

両国とも「何を考えているかわからない」が大幅に減少

次にお互いの国民、人びとについてはどう思っているのだろうか。「韓国人(日本人)をうまく表現していると思うもの」について、日本の韓国人イメージは、「気が強い」28%、「感情的」27%、「勤勉」24%に対し、韓国の日本人イメージは「親切」40%、「勤勉」38%、「礼

図 27 相手国イメージ(いくつでも、全体)

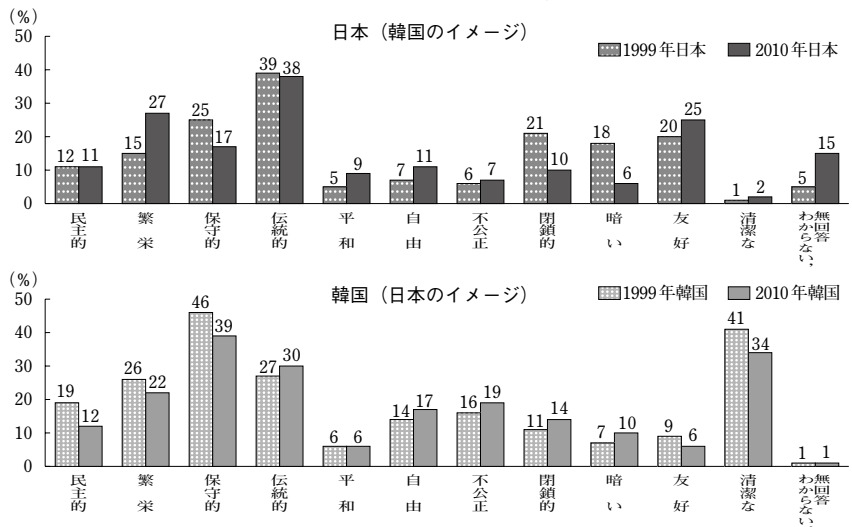
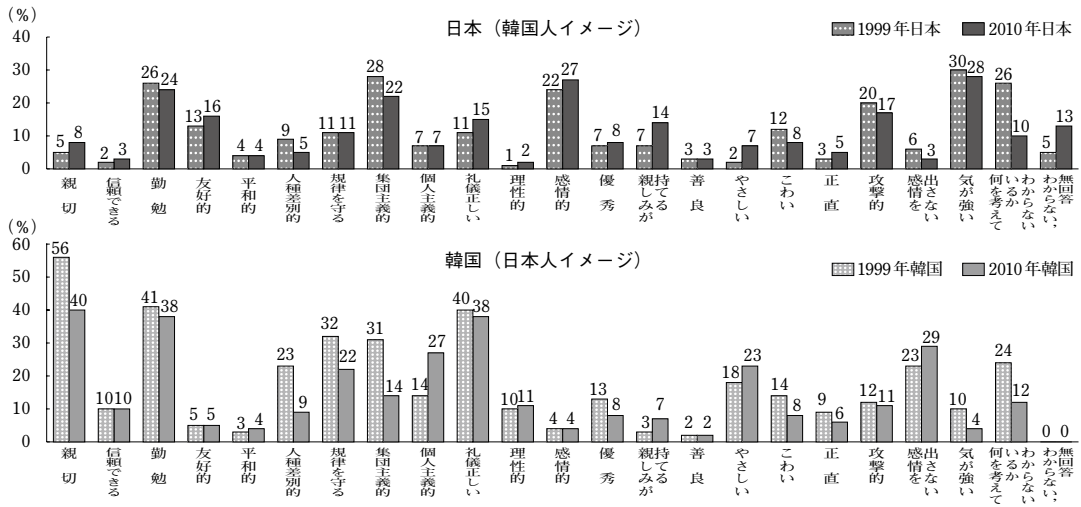


図 28 相手国人イメージ (いくつでも、全体)



「親切」38%となっている(図28)。99年の調査と比べると、韓国人イメージは、「何を考えているかわからない」が大きく減り、「友好的」「礼儀正しい」「親しみ」といったいいイメージが増加している。韓国の日本人イメージは、「個人主義的」「やさしい」「感情を出さない」などが増えているが、「親切」「人種差別的」「規律を守る」「集団主義的」「何を考えているかわからない」が大幅に減少し、特に、「親切」「規律を守る」といったいいイメージが減っている。両国とも「何を考えているかわからない」が大幅に減少したが、相手国人へのイメージ変化は異なっている。

日本人の韓国、韓国人へのイメージはいずれも好意的な方向に変化しているのに対し、韓国人の日本、日本人へのイメージは好意的なイメージが減っている。これらが相手国への好き、嫌いにもつながっていきそうである。また、これらのイメージの変化は、さまざまな情報によってもたらされるであろう。そこで、直接的な交流経験、情報接触、特に先にみた大衆文化の影響について日韓の違いをみていきたい。

日本の方がやや上回る相手国との交流経験

まず、「韓国や韓国人(日本や日本人)と接したり、交流した経験」については、日本の方が「話をしたことがある」、「知り合いがいる」人が韓国よりも多い。ただ「経験がない」が日本54%、韓国65%と、ともに多数である(図29)。

図 29 相手国との交流経験 (いくつでも、全体)

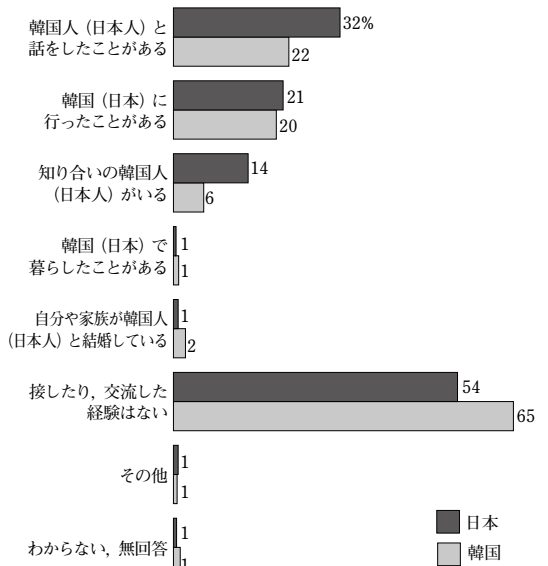
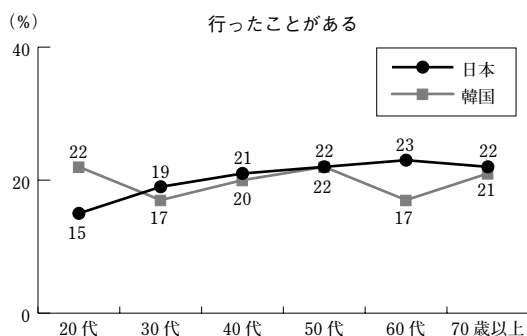
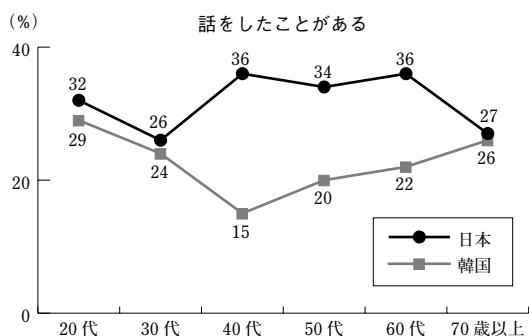


図30 相手国との交流経験(年層別)



交流体験のうち、上位2項目について年層別に日韓の違いをみると、「話をしたことがある」のは、40代～60代で日本は韓国より高く、20代、30代、70歳以上は同程度である。「行ったことがある」は年層別でも日韓での違いはみられない(図30)。

表7 相手国人で思い浮かべる人物(全体) 上位10名

日本				韓国			
順位	人物名	実数	%	順位	人物名	実数	%
1.	ペ・ヨンジュン	306	21	1.	伊藤博文	208	21
2.	キム・デジュン	112	8	2.	小泉純一郎	97	10
3.	イ・ミョンバク	107	7	3.	浅田真央	84	8
4.	チェ・ジウ	63	4	4.	イチロー	64	6
5.	イ・ビョンホン	58	4	5.	豊臣秀吉	60	6
6.	キム・ヨナ	50	3	6.	本田圭佑	25	3
7.	東方神起	39	3	7.	菅直人	19	2
8.	パク・チソン	23	2	8.	徳川家康	17	2
9.	パク・チョンヒ	17	1	9.	木村拓哉	16	2
10.	イ・スンマン	16	1	10.	安倍晋三	11	1
11.	その他	207	14	11.	その他	149	15
12.	思い浮かべる人はいない	298	20	12.	思い浮かべる人はいない	182	18
13.	わからない、無回答	177	12	13.	わからない、無回答	68	7

(2) 情報接触

思い浮かべる人物

ペ・ヨンジュンと伊藤博文

直接的接触はなくても、多くの情報から人々はイメージをつくりあげていく。その中で具体的な個人名が果たす役割は少なくないだろう。「韓国人(日本人)という、まず、だれを思い浮かべるか」1人の名前を自由にあげてもらい、回答の多い順に10位まであげたのが、表7である。1位は、日本が韓国ドラマ「冬のソナタ」で人気となった俳優「ペ・ヨンジュン」、韓国は初代韓国統監の「伊藤博文」で、ともに21%と2位を大きく引き離れた。2位は日本が元大統領の「キム・デジュン」、韓国も元首相の「小泉純一郎」、3位は日本が現大統領の「イ・ミョンバク」、韓国は冬のオリンピックでキム・ヨナとメダルを争ったフィギュアスケート選手の「浅田真央」となっている。

名前があがったすべての人についてジャンル

図31 思い浮かべる人物のジャンル(全体)

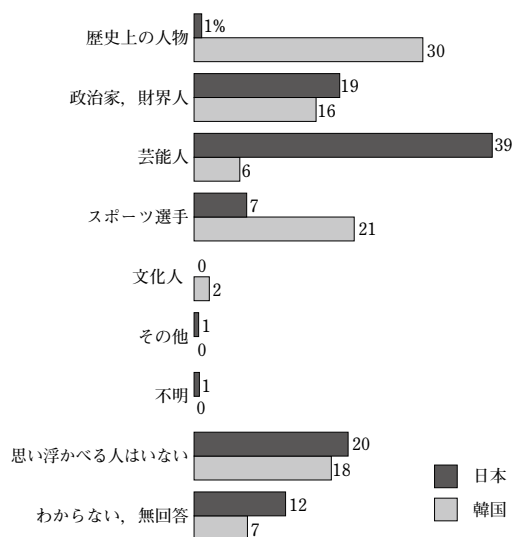
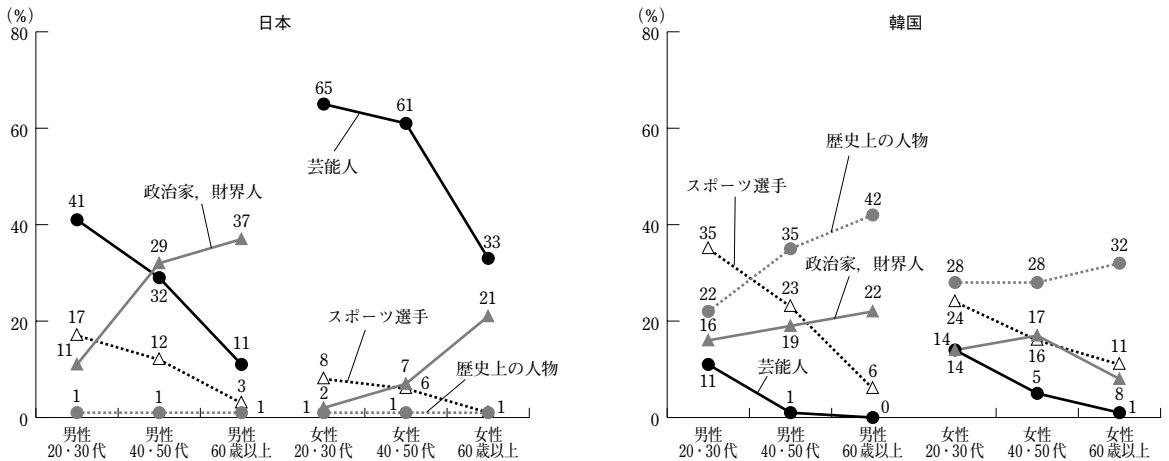


図 32 思い浮かべる人物のジャンル (年層別)



別にまとめ多い順にみると、日本は、芸能人、政治家・財界人、韓国は歴史上の人物、スポーツ選手となり、日韓でまったく異なる(図31)。

日本では、韓流とよばれる韓国の大衆文化の影響、一方韓国では歴史上の人物が人びとの印象に強く残っていることが注目される。

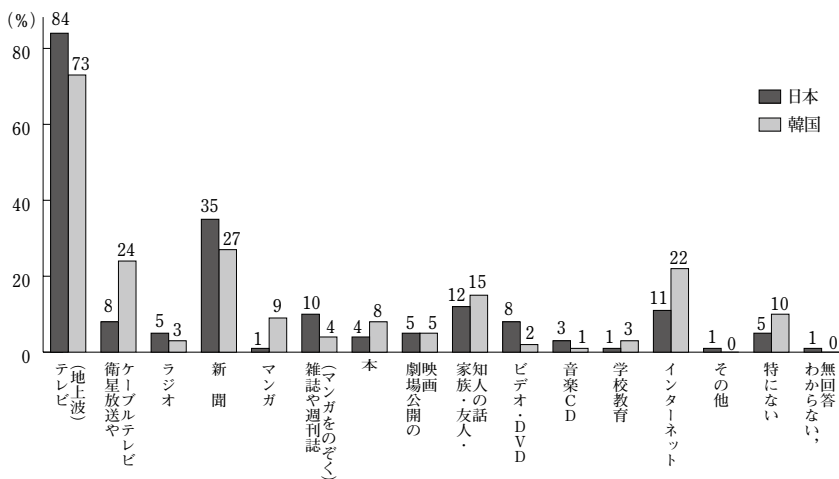
男女年層別にジャンルをみると、日本は、女性と若い男性は芸能人、60歳以上の男性は政治家・財界人が多い。韓国は、若い男性はスポーツ選手、若い女性は歴史上の人物とスポー

ツ選手、40歳以上の男女は歴史上の人物が多い(図32)。

情報源は両国とも「テレビ(地上波)」

互いの国の情報はどのように得ているのだろうか。「韓国(日本)に関する情報を主に何から得ているか」については、日本、韓国とも「テレビ(地上波)」が日本84%、韓国73%と圧倒的に多い。次いで、「新聞」が日韓とも2位となっている。日本ではそれ以外の項目は20%を超

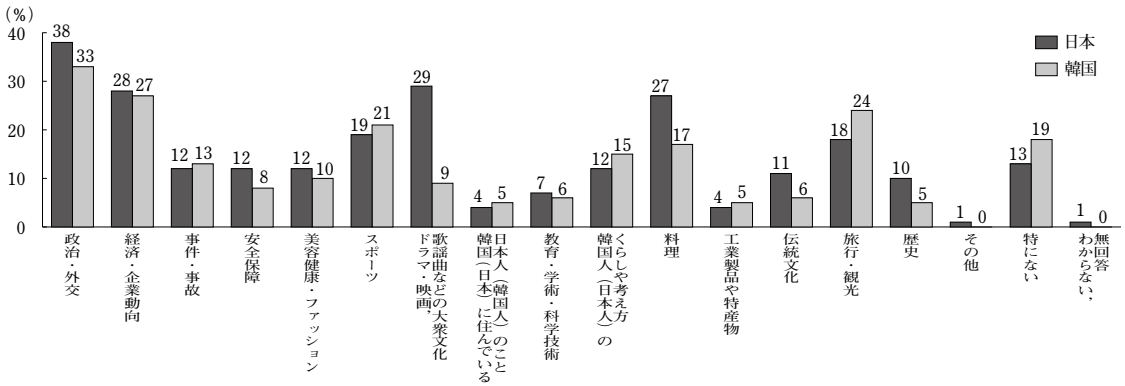
図 33 相手国についての情報源 (いくつでも、全体)



るものはないが、韓国では「衛星放送やケーブルテレビ」24%「インターネット」22%となっているのが注目される(図33)。

男女年層別にみると、日本では、どの層でも1位、2位は変わらないが、韓国では2位が男女とも20代・30代で「インターネット」となっている。

図 34 相手国についての関心ある情報（いくつでも、全体）



関心ある情報 日本「大衆文化」「料理」、
韓国「旅行・観光」

では、それらの情報はどのような分野のもの
だろうか。「韓国(日本)のどんな情報に関心を
もっているか」については、日本、韓国とも「政
治・外交」「経済・企業動向」をあげる人が多い。
日韓の違いとしては、日本では「大衆文化」
29%、「料理」27%が

多く、韓国では「旅行・
観光」24%が多いこと
があげられる(図34)。

日本について、男女
年層別でみると、男性
は「政治・外交」が1
位となるが、女性では
どの年層でも「ドラマ・
映画、歌謡曲などの大
衆文化」が1位となる。
2位は、男性40・50代、
60歳以上では、「経済・
企業動向」だが、20・
30代の男性では「ス
ポーツ」、女性は、60
歳未満では「料理」と
なる。

見たことのあるテレビ番組 日本は「ドラマ」
韓国は「ニュース」「ドキュメンタリー」

「韓国(日本)のことを扱ったテレビ番組を
見たことがある場合、どのような種類のテレ
ビ番組か」たずねたところ、日本では、「ド
rama」53%、「ニュース番組」39%であるが、
韓国では「ニュース番組」35%、「ドキュメン

図 35 相手国関連で見たことのあるテレビ番組（いくつでも、全体）

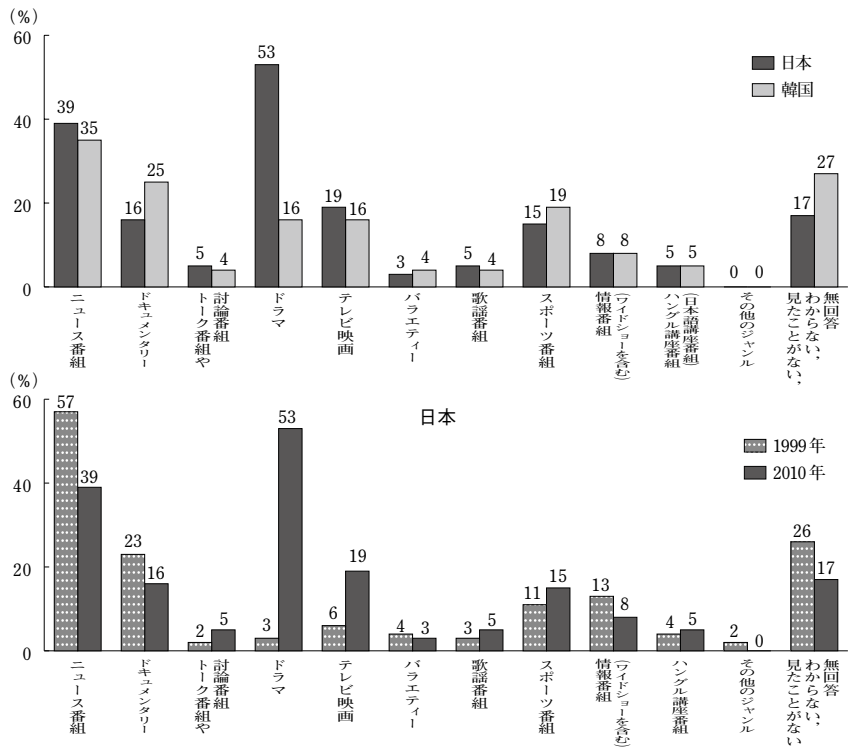


表8 相手国関連で見たことのあるテレビ番組 上位5位まで (いくつでも, 男女年齢別)

(%)

	日本			韓国		
	男 20・30代	男 40・50代	男 60歳以上	女 20・30代	女 40・50代	女 60歳以上
ドラマ	48	47	44	65	70	52
ニュース番組	40	45	37	35	35	38
テレビ映画	24	23	16	22	23	15
スポーツ番組	21	22	15	13	19	14
ドキュメンタリー	18	18	14	13	12	9
ニュース番組	32	40	39	30	34	36
テレビ映画	25	30	18	29	26	19
スポーツ番組	25	27	15	26	15	12
ドキュメンタリー	24	12	10	25	14	6
ドラマ	20	11	7	12	12	4

タリー」25%となっている。韓国で「ドラマ」は16%と少なく日本と大きな差がある(図35上)。日本の結果について、99年と比べると大きな変化があり、99年では「ニュース番組」が57%と多数であったが、「ドラマ」は3%に過ぎず、99年と2010年では韓国関連の視聴番組の種類が様変わりしている(図35下)。

男女年齢別(表8)にみると、日本は、男性60歳以上を除き、1位は「ドラマ」となっている。男性60歳以上でも、1位は「ニュース番組」だが、2位は「ドラマ」で、「韓国ドラマ」は圧倒的な人気をもっている。

(3) 日韓関係

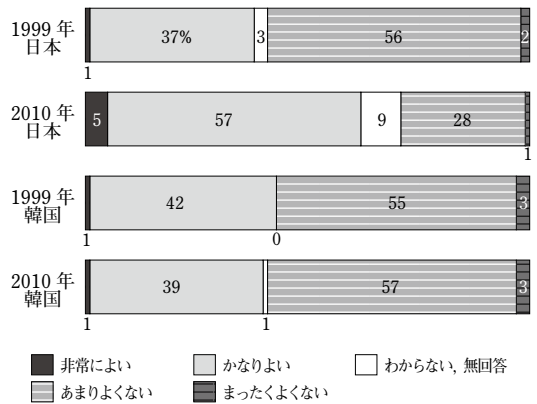
次に、政治的、経済的な両国関係を人びとがどう考えているかをみていく。

現在の日韓関係

「よい」が多い日本、少ない韓国

「現在、日本と韓国の関係(韓国と日本の関係)はよいほうだと思いますか、それとも、よくないほうだと思いますか」については、「よい(非常に+かなり)」という人は日本62%で、韓国40%に比べ多い。99年の調査では、日韓の結果はほとんど一致していたが、日本は「非常に

図36 現在の日韓関係(全体)



よい」が1%から5%へ、「かなりよい」が37%から57%へと大幅に増加している(図36)。

植民地支配の認識は日韓ともに増加

「日本が朝鮮半島を植民地支配したこと」について、どの程度知っているかについては、「知っている(よく+ある程度)」という人は日本68%で、韓国91%より少ない。99年の調査と比べると、日本は40%から68%へ、韓国は80%から91%へとともに増加している(図37)。

「日本の総理大臣が、植民地支配への反省とお詫びの気持ちを表明してきたこと」については、「知っている」は日本60%、韓国56%で日韓とも半数強となっている(図38)。

図 37 歴史問題認識—植民地支配(全体)

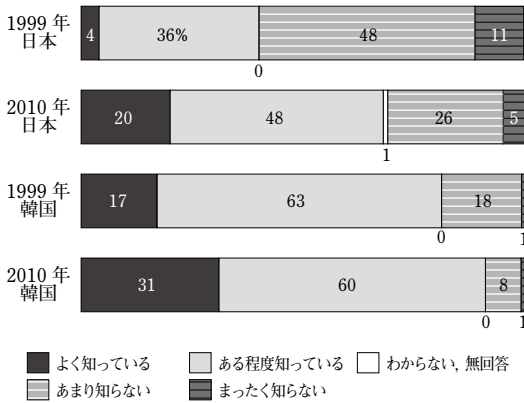


図 38 歴史問題認識—反省とお詫びの表明(全体)

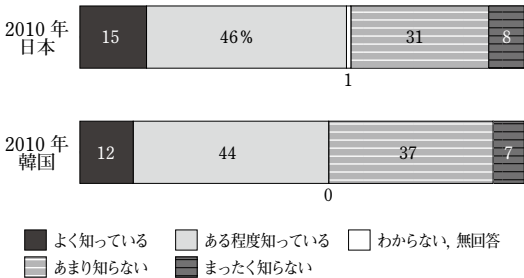
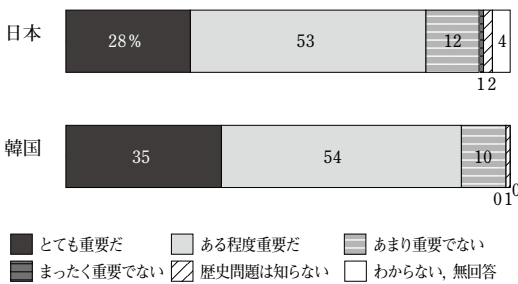


図 39 歴史問題の重要性認識(全体)



「韓国に対する日本の植民地支配など過去の歴史の問題は、日韓関係(韓日関係)にとってどの程度重要か」については、「重要だ(とても、ある程度)」という人は日本81%、韓国89%とともに多数である(図39)。

日韓関係の課題 韓国は圧倒的に「竹島(独島)」

「韓国と日本の関係を前進させるためには、なにが必要か」2つあげてもらったところ、日本では、「政治的対話」が37%で最も多く、「経済交流」、「文化・スポーツ交流」28%、「歴史認識をめぐる問題の解消」27%であった。一方、韓国では「竹島(独島)をめぐる問題の解消」が62%で最も多く、「歴史認識をめぐる問題の解消」34%、「戦後補償にかかわる問題の解決」26%、「政治的対話」22%の順となった(図40)。日本が現在の事柄を中心に取り上げたのに対し、韓国は歴史関連の事柄が中心で、日韓関係の課題についての認識は日韓で大きな違いがある。年層別にみると、韓国ではどの年層でも「竹島(独島)をめぐる問題の解消」が圧倒的に多い。それに対し、日本は年層別にみてもどれかに偏るといふ項目はない(表9)。

図 40 日韓関係の課題(2つ、全体)

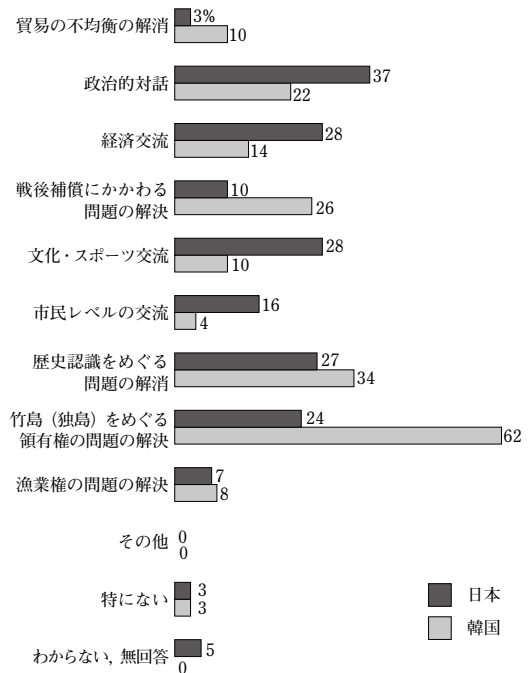


表9 日韓関係の課題 5位まで (いくつでも、年層別)

(%)

	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
日本	政治的対話 34	文化・スポーツ交流 32	歴史認識 39	政治的対話 39	政治的対話 43	政治的対話 34
	文化・スポーツ交流 34	政治的対話 32	政治的対話 37	経済交流 32	経済交流 32	経済交流 28
	歴史認識 34	竹島(独島) 30	文化・スポーツ交流 32	文化・スポーツ交流 28	歴史認識 27	文化・スポーツ交流 23
	経済交流 25	歴史認識 30	竹島(独島) 22	歴史認識 26	竹島(独島) 25	竹島(独島) 23
	竹島(独島) 21	経済交流 27	経済交流 21	市民レベルの交流 22	市民レベルの交流 23	歴史認識 15
韓国	竹島(独島) 54	竹島(独島) 63	竹島(独島) 62	竹島(独島) 72	竹島(独島) 56	竹島(独島) 65
	歴史認識 35	歴史認識 41	歴史認識 31	歴史認識 32	歴史認識 39	戦後補償 39
	政治的対話 25	政治的対話 26	戦後補償 27	戦後補償 25	戦後補償 30	歴史認識 26
	戦後補償 24	戦後補償 20	政治的対話 23	政治的対話 19	政治的対話 20	政治的対話 17
	文化・スポーツ交流 19	経済交流 13	経済交流 15	経済交流 16	貿易の不均衡 17	経済交流 14

今後の日韓関係は「強めるべき」日韓とも半数

「日本と韓国の関係(韓国と日本の関係)はどうすべきか」については、日韓ともに「いま以上に関係を強めるべき」という人が半数となっている。91年と比べると、韓国は「強めるべき」が64%から50%に減少、逆に日本は45%から53%へと増加している(図41)。

「これから日本と韓国の交流を特に活性化しなければならない分野」について2つあげてもらったところ、日韓とも多い順に「政治・外交」「経済・貿易」「安全保障」となっている(図42)。

経済・貿易面の交流の手段として、FTA(自由貿易協定)の問題があるが、「日本と韓国の間で自由貿易協定を結ぶこと」については、『賛成(どちらかといえば含む)』という人は日本68%、韓国63%で、日本の方がやや多いが、ともに多数となっている(図43)。

政治・外交面では、相互訪問し、両国間の課題を話し合う「シャトル外交」が行われているが、この「シャトル外交」が両国の関係改善に役立っていると思うかどうかについて

図41 今後の日韓関係・希望(全体)

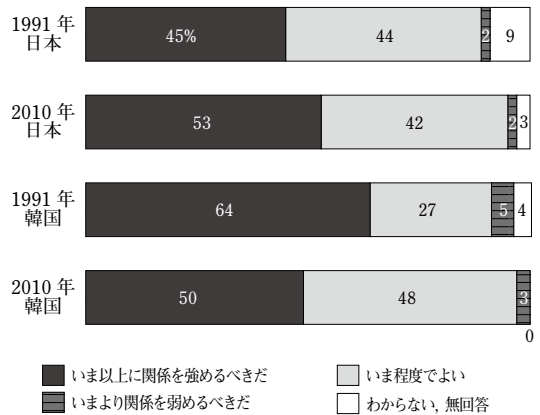


図42 交流を活性化すべき分野(2つ、全体)

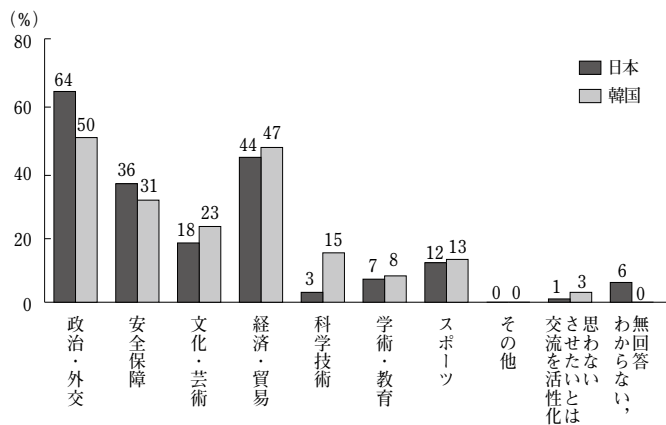


図 43 日韓 FTA の是非 (全体)

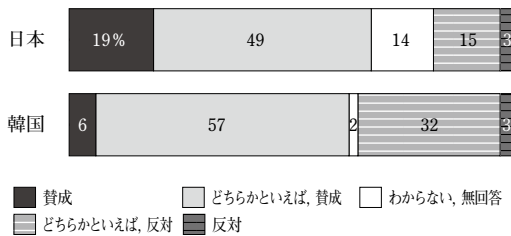
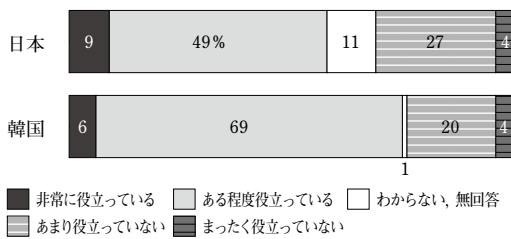


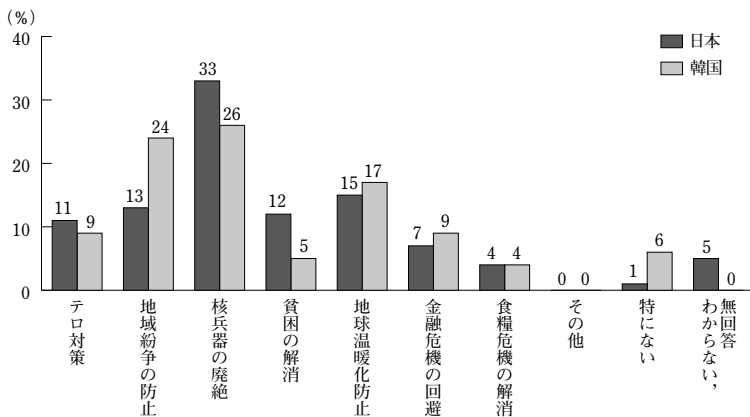
図 44 シャトル外交の評価 (全体)



は、「役立っている(非常に+ある程度)」という人は日本58%、韓国75%で韓国の方が多く、ともに多数となっている(図44)。

「国際社会で取り組まねばならない最も重要な問題」についてあげてもらったところ、日本は「核兵器の廃絶」が33%で他を引き離して多く、韓国でもやはり「核兵器の廃絶」が最も多いが26%で日本よりは少ない(図45)。韓国では「地域紛争の防止」24%が続いて多い。「地球温暖化防止」は日本15%、韓国17%で変わらない。

図 45 国際的な取り組み課題 (全体)



男女年層別(表10)にみると、日本ではどの層でも「核兵器の廃絶」が一番多いが、韓国では、男20・30代、男40・50代、女20・30代では「地域紛争の防止」が「核兵器の廃絶」と並んでいる。韓国では、北朝鮮とは戦争が終結していないことと兵役の義務があることによるのであろう。

北朝鮮の状況は日韓にとって脅威

「安全保障面で脅威を感じる」国(第19問D)として、日本、韓国ともに1位は「北朝鮮」(7割)として、日本、韓国ともに1位は「北朝鮮」(7割)で2位の「中国」を大きく引き離している。そこで、北朝鮮に対する政治課題について、両国の考えをみておこう。まず、「北朝鮮の状況は、日本(韓国)にとってどの程度脅威があるか」について、「脅威がある(非常に+ある程度)」という人は日本92%、韓国79%で日本の方が多く、ともに多数である。また、日本の方が「非常に」が多い(図46)。

「北朝鮮に望む政治課題」をいくつかあげてもらったところ、日本は「日本人の拉致問題の解決」79%、「核問題の解決」72%、「政治体制の民主化」38%の順であるが、韓国では「核問題の解決」78%、「朝鮮戦争などで離れ離れになった離散家族問題の解決」47%、「韓

国人の拉致問題や韓国軍捕虜問題の解決」29%となっている。「核問題の解決」を、多くの人が望んでいるのは、日韓で共通している。しかし、「政治体制の民主化」、「軍縮」については、韓国であげる人は日本の半数程度である(図47)。

「北朝鮮の核問題の解決のために、日本(韓国)はどのように対処すべきか」について、日本は「経済制裁や外交的圧力などを強め、強

表 10 国際的な取り組み課題 上位 5 位まで (いくつでも, 男女年層別)

(%)

	男 20・30 代	男 40・50 代	男 60 歳以上	女 20・30 代	女 40・50 代	女 60 歳以上
日本	核兵器の廃絶 26	核兵器の廃絶 23	核兵器の廃絶 36	核兵器の廃絶 30	核兵器の廃絶 37	核兵器の廃絶 39
	貧困の解消 20	地域紛争の防止 18	地域紛争の防止 18	貧困の解消 19	地球温暖化防止 15	地球温暖化防止 15
	地球温暖化防止 15	地球温暖化防止 17	テロ対策 14	地球温暖化防止 18	地域紛争の防止 14	テロ対策 10
	金融危機の回避 11	貧困の解消 14	地球温暖化防止 12	テロ対策 11	貧困の解消 13	地域紛争の防止 9
	地域紛争の防止 11	テロ対策 12	貧困の解消 6	地域紛争の防止 10	テロ対策 8	貧困の解消 7
韓国	地域紛争の防止 26	地域紛争の防止 26	核兵器の廃絶 30	地域紛争の防止 25	核兵器の廃絶 28	核兵器の廃絶 26
	核兵器の廃絶 24	核兵器の廃絶 26	地域紛争の防止 24	核兵器の廃絶 23	地域紛争の防止 19	地域紛争の防止 20
	地球温暖化防止 15	地球温暖化防止 17	金融危機の回避 13	地球温暖化防止 23	地球温暖化防止 16	地球温暖化防止 13
	テロ対策 10	テロ対策 9	地球温暖化防止 11	金融危機の回避 10	金融危機の回避 11	貧困の解消 9
	金融危機の回避 9	金融危機の回避 8	テロ対策 7	テロ対策 8	テロ対策 10	テロ対策 7

図 46 北朝鮮の状況について (全体)

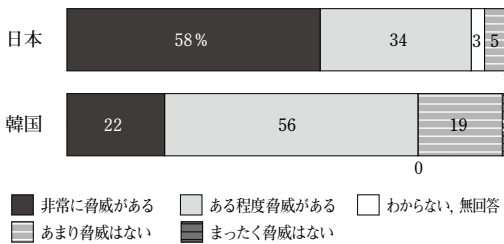


図 48 北朝鮮核保有への対応 (全体)

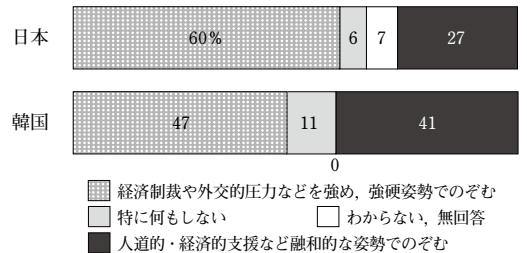
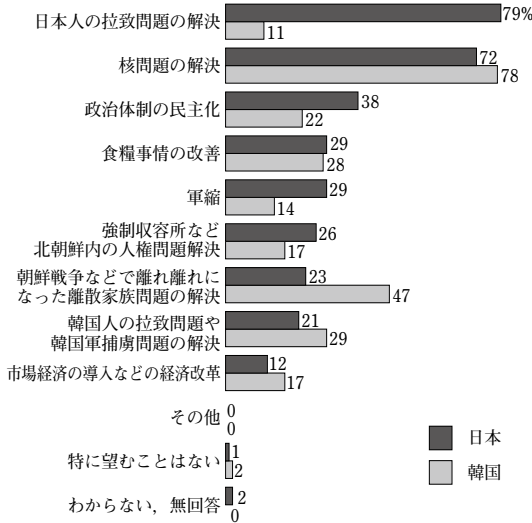


図 47 北朝鮮に望む政治課題 (いくつでも, 全体) - 日本の結果の高い順 -



れているのは、他国への意識で「親近感」がある国として、「北朝鮮」をあげる人が「アメリカ」、「日本」に次いで多いことと関係しているであろう。韓国では「親近感」がある国として「北朝鮮」をあげる人では、「強硬姿勢」が39%に対し、「融和的な姿勢」が53%と逆転する。また、北朝鮮に脅威を感じる程度が強いほど、「強硬姿勢」の割合は高くなるが、韓国では、「非常に脅威がある」と感じる人は少ないため、「強硬姿勢」の人は多数とはならないのである。

(4) 相手国を好き, 嫌いの要因
～まとめに代えて～

硬姿勢でのぞむ」が60%で、「人道的・経済的支援など融和的な姿勢でのぞむ」27%を大幅に上回るが、韓国は「強硬姿勢」47%に対し、「融和的な姿勢」41%と2分されている(図48)。

日本の韓国併合から100年、日韓国交正常化から45年が経つ。また、この20年には、歴代総理の植民地支配へのおわびの表明、金大中大統領の日本文化開放策、韓流、日流といった文化の進出、日韓ワールドカップの共催、経済成長といった大きな変化があった。

核問題の解決のための対処が韓国で2分さ

そのような中であって、日本では韓国を『好き』という人が増加し過半数に、逆に韓国では日本人が『嫌い』という人が多数となった。これまで、生活意識、社会観、相手国への関心、テレビで接したことのある情報、歴史問題に対する考えなどをみてきたが、相手国を『好き』か『嫌い』かに分かれるのはどのような要因によるものかをみておきたい。これによって、ここで扱った多数の意見や意識を好き嫌いという視点により、総括的に考えられるからである。そして、これによって本稿全体のまとめとしたい。

まず、意識や基本属性が好き嫌いに関わる程度(影響の大きさ)をみるため、『好き』『嫌い』を外的基準変数として、数量化Ⅱ類で計算した(表11)。日韓で効果の違いをみるために、計算に使った項目は日韓で揃えたが、計算は日韓別に行った。項目ごとの『好き』『嫌い』に対する影響の大きさは偏相関係数でみることができる。

日本についてみると、影響が大きいのは相手

国への関心、見たことのあるテレビ番組「ドラマ」、交流経験パターン⁷⁾、歴史問題の重要性認識、ナショナリズム「すぐれた素質」、思い浮かべる人物のジャンル、年層の順となる。韓国については、相手国への関心、交流経験パターン、歴史問題の重要性認識、思い浮かべる人物のジャンル、見たことのあるテレビ番組「ドラマ」、年層の順で、偏相関係数の大きさは異なるが、上位に上がるものは両方で共通している。

回答ごとには、好き、嫌いに対する寄与度の高いものからみると、日韓共通して、『好き』に働くのは、「関心がある」「知人、身内、居住」「行ったことがある」「芸能人」「ドラマ」「30代」となっている。逆に『嫌い』に働くのは、「関心がない」「交流経験なし」「60代」となっている。

韓国で『嫌い』に働くのは、「関心がない」「歴史上の人物」「歴史問題」「とても重要だ」「50代」「ニュース番組」が大きい。韓国では、「戦後の教育史と教育課程の変遷をまとめてみると、

表11 好き嫌いの要因(数量化Ⅱ類)

●外的基準 相手国好き・嫌い		日本	韓国	●カテゴリスコア(偏相関係数の上位7項目の回答について掲載)					
『好き』(「どちらかといえば」も含む)		848	269	相手国関心・まとめ	日本	韓国	歴史問題の重要性認識	日本	韓国
『嫌い』(「どちらかといえば」も含む)		319	678	関心がある	0.427	0.707	とても重要だ	0.263	-0.286
有効ケース数		1167	947	関心がない	-0.728	-0.654	ある程度重要だ	-0.072	0.085
相関比		0.182	0.260	交流経験パターン			あまり重要でない	-0.040	0.521
●偏相関係数							まったく重要でない	(-1.592)	(-1.706)
		日本	韓国	知人、身内、居住	0.277	0.567	歴史問題は知らない	(-1.161)	(0.093)
相手国関心・まとめ		0.236	0.354	行ったことがある	0.395	0.481	ナショナリズム「すぐれた素質」		
交流経験パターン		0.114	0.160	話したことがある	-0.290	-0.008	そう思う	-0.133	-0.050
思い浮かべる人物のジャンル		0.096	0.126	経験なし	-0.145	-0.178	どちらかといえばそう思う	-0.014	0.053
見たことのあるテレビ番組	ニュース番組	0.003	0.078	思い浮かべる人物のジャンル			歴史上の人物	(0.624)	-0.249
	ドキュメンタリー	0.058	0.015	歴史上の人物	(0.624)	-0.249	政治家、財界人	0.010	-0.174
	ドラマ	0.169	0.089	政治家、財界人	0.010	-0.174	芸能人	0.195	0.375
	テレビ映画	0.012	0.004	芸能人	0.195	0.375	年層		
	スポーツ番組	0.061	0.020	スポーツ選手	-0.297	0.262	20代	0.000	0.212
情報番組(ワイドショーを含む)	0.002	0.044	いない	-0.189	0.069	30代	0.238	0.149	
歴史問題認識「植民地支配」		0.019	0.057	わからない、無回答	-0.379	0.161	40代	0.136	-0.063
歴史問題認識「総理大臣の謝罪」		0.074	0.075	見たことのあるテレビ番組			50代	0.107	-0.223
歴史問題の重要性認識		0.122	0.147	ニュース番組	-0.007	-0.187	60代	-0.138	-0.146
ナショナリズム「すぐれた素質」		0.109	0.038	ドキュメンタリー	-0.288	-0.047	70歳以上	-0.386	-0.002
ナショナリズム「愛国心」		0.020	0.062	ドラマ	0.344	0.377			
学歴		0.062	0.042	テレビ映画	0.055	0.017			
性		0.002	0.018	スポーツ番組	0.308	0.071			
年層		0.088	0.086	情報番組(ワイドショーを含む)	-0.017	0.251			

() は実数が少ないため、参考にとどめた。

朝鮮戦争とイ・スンマン(李承晩)政権時代～1960年代末までにおける反共、反日政策は顕著であった⁸⁾という。その環境で育った韓国の「50代」「60代」が『嫌い』に働いている。また、「ニュース番組」では、問題があることを伝えることが多いため、『嫌い』に働くと言えよう。

ところで、同じ回答でも、歴史問題の重要性認識について「とても重要だ」が日本では『好き』に韓国では『嫌い』に働く。日本から言えば、韓国を理解しようとする姿勢、韓国からすれば被害の内容を知るということで、正反対の感情につながるのであろう。

一方、日本だけでなく、韓国でもドラマの効果が、『好き』に働くのは共通している。ドラマを「よく見る」「たまに見る」という人では、韓国でも「日本への興味が増した」と思う人46%、「日本のイメージがよくなった」と思う人30%、「日本の文化に対する評価が高くなった」と思う人25%で、いずれもそうは思わない人よりも多い。韓国でもドラマの視聴が日本へのプラス評価に結びつくことを示している。韓国では、日本のドラマの地上波での放送は見送られたままである。文化面での一層の交流が日韓の未来のために望まれる。

『嫌い』に働くのは、歴史問題に関わる事柄が大きい。調査票を作成するにあたって、歴史問題の質問を作成するのに、両国の見解の確認が最も困難な作業であった。両国で見解が異なるため、質問に盛り込むことができないものもあった。それでも、歴史問題は日韓関係に重要な問題と認識する人が日韓とも多数となり、歴史問題の重要性を確認することができた。韓国の歴史問題への敏感な反応は支配された国の痛みであり、日本人としては、韓国人の痛みである歴史を知ることが必要であり、お互い多面的な歴史を知ることが相互の理解につながる。

日韓の歴史共同研究、韓国での日本の大衆文化の開放など、日韓関係は始まったばかりともいえる。互いに真の意味で近い国になるために、今後の100年に向けた努力をしていかなければならない。

(こののけい/はらみわこ)

執筆分担 はじめに、3章:河野啓 1章, 2章:原美和子

注:

1) 1991年, 1999年の調査の概要

1991年		日本・韓国・フィリピン3か国比較調査	
調査時期	日本	1991年6月21日(金)～6月30日(日)	
	韓国	1991年6月27日(木)～7月7日(日)	
調査方法	個人面接法		
調査対象	全国20歳以上の国民*		
調査相手	日本	住民基本台帳から層化無作為2段抽出 1,800人(12人×150地点)	
	韓国	世帯名簿から層化無作為3段抽出** 1,000人(平均7人×138地点)	
調査有効数(率)	日本	日本 1,243人(69.1%)	
	韓国	1,000人	

1999年		日本・韓国・中国3カ国調査	
調査時期	1999年(平成11年10月)中旬		
調査方法	個人面接法		
調査対象	全国20歳以上の国民*		
調査相手	日本	住民基本台帳から層化無作為2段抽出 18歳以上の国民 2,200人	
	韓国	層化3段抽出** 20～64歳の1,517人	
調査有効数(率)	日本	1,341人(61.0%) 20歳以上 1,314人	
	韓国	1,517人	

*韓国(済州島除く) **調査相手の抽出は誕生日法

- 2) この質問の設計については、NHK放送文化研究所編『現代日本人の意識構造〔第7版〕』(日本放送出版協会, 2010年) p.198～199
- 3) 主婦, 無職, 学生その他, 無回答以外を「有職」とした
- 4) 春木育美 『現代韓国と女性』(新幹社, 2006年)
- 5) NHK放送文化研究所編『現代日本人の意識構造〔第7版〕』(日本放送出版協会, 2010年) p.65～68
- 6) クォン・ヨンソク 『『韓流』と『日流』』(日本放送出版協会, 2010年)
- 7) 交流経験パターン
第3問の回答から作成
 - 1 知人, 身内, 居住(「3」「4」「5」のいずれかに○)
 - 2 行ったことがある
「3」「4」「5」に○がなくて、「2」に○
 - 3 話したことがある
「2」から「5」に○がなくて、「1」に○
 - 4 経験なし (「6」だけに○)
 - 5 その他, 無回答 (上記以外)
- 8) 君島和彦 『教科書の思想—日本と韓国の近現代史』(すずさわ書店, 1996年) p.56

【調査の概要】

1. 調査目的 2010年は、日本が韓国を併合してから100年となる節目の年である。NHKとKBSで合同の世論調査をおこない、日韓関係の現在・過去・未来に対する意識や両国の共通関心事項、基本的な国民性などについて調べ、両国国民の意識の特性を明らかにする。
2. 調査時期 2010年6月26日(土)～7月4日(日)
3. 調査方法 個人面接法
4. 調査対象 全国20歳以上の国民(韓国は済州島を除く)
5. 調査相手 日本 住民基本台帳から層化無作為2段抽出
2,400人(12人×200地点)
韓国 層化3段抽出
(調査相手の抽出は誕生日法、割当法)
1,000人(10人×100地点)
6. 調査有効数 日本 1,473人(61.4%)
(有効率) 韓国 1,000人

日本と韓国の比較(信頼度95%) >韓国と比べ高い <韓国と比べ低い
()内は韓国での調査票での表記

一相手国関心一

第1問 あなたは、韓国(日本)についてのどの程度、関心がありますか。リストから1つお答えください。

	日本	韓国
1. とても関心がある	1,473	1,000人
2. ある程度、関心がある	8.8	> 6.0%
3. あまり関心がない	48.4	> 42.4
4. まったく関心がない	34.0	< 40.9
5. わからない、無回答	8.2	< 10.7
	0.6	> 0.0

一相手国好き・嫌い一

第2問 あなたは韓国(日本)が好きですか。それとも嫌いですか。リストから1つお答えください。

	日本	韓国
1. 好き	11.9	> 1.9%
2. どちらかといえば好き	50.2	> 26.0
3. どちらかといえば嫌い	20.6	< 57.3
4. 嫌い	4.1	< 13.5
5. わからない、無回答	13.0	> 1.3

一相手国との交流経験一

第3問 あなたは、韓国や韓国人(日本や日本人)と接したり、交流した経験がありますか。リストからあてはまるものをいくつかもあげてください。(M.A.)

	日本	韓国
1. 韓国人(日本人)と話をしたことがある	31.9	> 22.1%
2. 韓国(日本)に行ったことがある	21.0	19.7
3. 知り合いの韓国人(日本人)がいる	14.3	> 5.8
4. 韓国(日本)で暮らしたことがある	0.5	1.0
5. 自分や家族が韓国人(日本人)と結婚している	0.9	< 2.3
6. 接したり、交流した経験はない	54.4	< 65.1
7. その他(具体的に)	0.9	0.7
8. わからない、無回答	0.6	1.3

一相手国イメージ一

第4問 あなたは、今の韓国(日本)を言葉で言い表わすとしたら、どの言葉がふさわしいと思いますか。リストからあてはまるものをいくつかもおっしゃってください。(M.A.)

	日本	韓国
1. 民主的	11.1	12.2%
2. 繁栄	26.7	> 21.5
3. 保守的	17.0	< 39.0
4. 伝統的	37.9	> 30.3
5. 平和	8.5	> 5.6
6. 自由	11.3	< 16.8
7. 不公正	6.8	< 18.6

8. 閉鎖的	10.1	< 13.9
9. 暗い	6.2	< 10.3
10. 友好	24.8	> 5.7
11. 清潔な	2.3	< 33.9
12. わからない、無回答	14.5	> 0.6

一相手国イメージ一

第5問 では、「韓国人(日本人)」をうまく表現していると思うものを、リストからいくつかもお答えください。(M.A.)

	日本	韓国
1. 親切	8.4	< 40.1%
2. 信頼できる	2.5	< 10.1
3. 勤勉	23.8	< 38.4
4. 友好的	16.1	> 5.1
5. 平和的	4.0	3.8
6. 人種差別的	4.5	< 9.1
7. 規律を守る	10.5	< 21.5
8. 集団主義的	22.1	> 14.2
9. 個人主義的	6.7	< 26.6
10. 礼儀正しい	15.1	< 38.2
11. 理性的	1.5	< 10.5
12. 感情的	27.1	> 4.4
13. 優秀	8.3	8.2
14. 親しみが持てる	14.1	> 7.4
15. 善良	2.9	2.4
16. やさしい	6.8	< 22.6
17. こわい	7.8	8.4
18. 正直	4.7	6.3
19. 攻撃的	17.0	> 11.0
20. 感情を出さない	3.0	< 29.2
21. 気が強い	27.6	> 4.3
22. 何を考えているかわからない	10.3	11.5
23. わからない、無回答	13.2	> 0.0

一相手国で思い浮べる人物一

第6問 あなたは、韓国人(日本人)という、まず、だれを思い浮かべますか。歴史上の人でも現在の人でも結構です。友達や個人的知り合いは除いて、思い浮かべる人物をひとりだけあげてください。(リストなし 自由回答)

日本(上位10名)	実数	%
1. ペ・ヨンジュン	306	20.8
2. キム・デジュン	112	7.6
3. イ・ミョンバク	107	7.3
4. チェ・ジウ	63	4.3
5. イ・ビョンホン	58	3.9
6. キム・ヨナ	50	3.4
7. 東方神起	39	2.6
8. バク・チソン	23	1.6
9. バク・チョンヒ	17	1.2
10. イ・スンマン	16	1.1
11. その他	207	14.1
12. 思い浮かべる人はいない	298	20.2
13. わからない、無回答	177	12.0

韓国(上位10名)	実数	%
1. 伊藤博文	208	20.8
2. 小泉純一郎	97	9.7
3. 浅田真央	84	8.4
4. イチロー	64	6.4
5. 豊臣秀吉	60	6.0
6. 本田圭佑	25	2.5
7. 菅直人	19	1.9
8. 徳川家康	17	1.7
9. 木村拓哉	16	1.6
10. 安倍晋三	11	1.1
11. その他	149	14.9
12. 思い浮かべる人はいない	182	18.2
13. わからない、無回答	68	6.8

一相手国についての情報源一

第7問 あなたは、韓国(日本)に関する情報を主に何から得ていますか。リストからいくつでもお答えください。(M.A.)

	日本	韓国
1. テレビ(地上波)	83.6	> 72.5 %
2. 衛星放送やケーブルテレビ	7.7	< 24.1
3. ラジオ	4.8	> 2.8
4. 新聞	35.2	> 26.8
5. マンガ	1.0	< 8.5
6. 雑誌や週刊誌(マンガをのぞく)	10.0	> 3.6
7. 本	3.8	< 8.3
8. 劇場公開の映画	4.5	5.1
9. 家族・友人・知人の話	11.5	< 15.3
10. ビデオ・DVD	7.5	> 2.0
11. 音楽CD	2.6	> 0.9
12. 学校教育	1.4	< 3.1
13. インターネット	10.7	< 22.2
14. その他(具体的に)	0.7	> 0.0
15. 特にない	4.9	< 10.1
16. わからない、無回答	0.6	> 0.0

一相手国についての関心ある情報一

第8問 韓国(日本)のどんな情報に関心をもっていますか。リストからいくつでもおっしゃってください。(M.A.)

	日本	韓国
1. 政治・外交	38.2	> 33.2 %
2. 経済・企業動向	28.2	26.8
3. 事件・事故	11.7	12.6
4. 安全保障	11.8	> 7.7
5. 美容健康・ファッション	11.5	9.6
6. スポーツ	18.5	20.8
7. ドラマ・映画、歌謡曲などの大衆文化	28.6	> 9.2
8. 韓国に住んでいる日本人のこと (日本に住んでいる韓国人のこと)	3.9	5.4
9. 教育・学術・科学技術	7.1	6.4
10. 韓国人のくらしや考え方 (日本人のくらしや考え方)	12.4	< 15.2
11. 料理	26.8	> 17.3
12. 工業製品や特産物	4.2	4.9
13. 伝統文化	10.5	> 6.2
14. 旅行・観光	17.9	< 23.9
15. 歴史	10.3	> 5.3
16. その他(具体的に)	0.5	0.2
17. 特にない	13.3	< 18.6
18. わからない、無回答	1.4	> 0.0

一相手国関連で見たことのあるテレビ番組一

第9問 あなたは韓国(日本)のことを扱ったテレビ番組を見たことがありますか。ある場合は次のうちどのような種類のテレビ番組でしたか。リストから、いくつでもおっしゃってください。ない場合は、お答えいただかなくても構いません。(M.A.)

	日本	韓国
1. ニュース番組	39.2	> 34.6 %
2. ドキュメンタリー	16.4	< 25.1
3. トーク番組や討論番組	4.6	4.4
4. ドラマ	53.4	> 15.8
5. テレビ映画	19.1	16.1
6. パラエティ	3.3	3.6
7. 歌謡番組	4.8	3.9
8. スポーツ番組	14.7	< 18.5
9. 情報番組(ワイドショーを含む)	7.9	8.4
10. ハングル講座番組(日本語講座番組)	5.1	4.6
11. その他のジャンル	0.0	< 0.3
12. 見たことがない、わからない、 無回答	16.9	< 27.1

一現在の日韓関係(韓日関係)一

第10問 あなたは、現在、日本と韓国の関係(韓国と日本の関係)はよいほうだと思いますか、それとも、よくないほうだと思いますか。リストから1つお答えください。

	日本	韓国
1. 非常によい	4.9	> 0.7 %
2. かなりよい	57.2	> 38.5
3. あまりよくない	28.2	< 56.7
4. まったくよくない	1.1	< 3.2
5. わからない、無回答	8.6	> 0.9

一日韓関係(韓日関係)の課題は何か一

第11問 あなたは韓国と日本の関係を前進させるためには、なにが必要だと思いますか。リストから、重要だと思うことを2つお答えください。(2つ)

	日本	韓国
1. 貿易の不均衡の解消	2.9	< 10.4 %
2. 政治的対話	37.1	> 22.3
3. 経済交流	28.0	> 13.9
4. 戦後補償にかかわる問題の解決	10.0	< 26.0
5. 文化・スポーツ交流	27.6	> 9.9
6. 市民レベルの交流	16.3	> 4.3
7. 歴史認識をめぐる問題の解消	27.4	< 34.4
8. 竹島(独島)をめぐる 領有権の問題の解決	23.6	< 62.0
9. 漁業権の問題の解決	6.7	8.4
10. その他(具体的に)	0.0	0.0
11. 特にない	2.6	2.8
12. わからない、無回答	5.3	> 0.0

一歴史問題認識一

第12問 あなたは、つぎにあげるA、Bそれぞれについて、どの程度知っていますか。リストから1つお答えください。

A: 日本が朝鮮半島を植民地支配したこと

	日本	韓国
1. よく知っている	19.7	< 31.2 %
2. ある程度知っている	48.3	< 60.0
3. あまり知らない	25.5	> 8.1
4. まったく知らない	5.4	> 0.6
5. わからない、無回答	1.0	> 0.1

B: 日本の総理大臣が、植民地支配への反省とお詫びの気持ちを表明してきたこと

	日本	韓国
1. よく知っている	14.8	> 11.9 %
2. ある程度知っている	45.6	44.2
3. あまり知らない	30.5	< 37.0
4. まったく知らない	8.1	6.7
5. わからない、無回答	1.0	> 0.2

一歴史問題の重要性認識一

第13問 韓国に対する日本の植民地支配など過去の歴史の問題は、日韓関係(韓日関係)にとってどの程度重要だと思いますか。リストから1つお答えください。

	日本	韓国
1. とても重要だ	27.6	< 34.8 %
2. ある程度重要だ	53.0	54.1
3. あまり重要でない	11.9	10.1
4. まったく重要でない	1.2	> 0.3
5. 歴史問題は知らない	1.9	> 0.7
6. わからない、無回答	4.4	> 0.0

一今後の日韓関係・希望一

第14問 今後、日本と韓国の関係(韓国と日本の関係)はどうすべきだと思いますか。

	日本	韓国
1. いま以上に関係を強めるべきだ	52.6	49.6 %
2. いま程度でよい	42.1	< 47.8
3. いまより関係を弱めるべきだ	2.1	2.5
4. わからない、無回答	3.2	> 0.1

—交流を活性化すべき分野—

第15問 これから日本と韓国の交流（韓国と日本の交流）を特に活性化しなければならない分野は何だと思いますか。リストから2つお答えください。（2つ）

A+B ふたつ	日本	韓国
1. 政治・外交	64.4	> 50.3
2. 安全保障	36.0	> 31.1
3. 文化・芸術	17.8	< 23.3
4. 経済・貿易	43.9	46.7
5. 科学技術	3.1	< 14.7
6. 学術・教育	7.2	7.8
7. スポーツ	11.6	13.4
8. その他（具体的に）	0.1	0.0
9. 交流を活性化させたいとは思わない	0.8	< 3.4
10. わからない、無回答	5.6	> 0.1

—日韓（韓日）FTAの是非—

第16問 日本と韓国（韓国と日本）の間で、労働力やモノの行き来を自由にするために、関税や通商規則の制限をなくす自由貿易協定（FTA）を結ぶ構想があります。あなたは日本と韓国の間で自由貿易協定を結ぶことについてどのようにお考えですか。

	日本	韓国
1. 賛成	19.4	> 5.9
2. どちらかといえば、賛成	48.7	< 57.4
3. どちらかといえば、反対	15.1	< 31.9
4. 反対	2.8	3.1
5. わからない、無回答	14.1	> 1.7

—シャトル外交の評価—

第17問 日本の内閣総理大臣（韓国大統領）と韓国の大統領（日本の内閣総理大臣）が年1回相互訪問し、両国間の課題を話し合う「シャトル外交」が行われています。この「シャトル外交」は両国の関係改善に役立っていると思いませんか。

	日本	韓国
1. 非常に役立っている	8.8	> 5.6
2. ある程度役立っている	49.3	< 69.3
3. あまり役立っていない	27.4	> 20.0
4. まったく役立っていない	3.5	3.8
5. わからない、無回答	11.1	> 1.3

—国際的な取り組み課題—

第18問 日本や韓国（韓国や日本）も含め、国際社会で取り組まねばならない最も重要な課題は何だと思いますか。リストから1つお答えください。

	日本	韓国
1. テロ対策	10.9	8.9
2. 地域紛争の防止	13.1	< 23.7
3. 核兵器の廃絶	32.9	> 26.0
4. 貧困の解消	12.0	> 5.3
5. 地球温暖化防止	14.9	16.6
6. 金融危機の回避	6.5	< 9.4
7. 食糧危機の解消	3.8	4.1
8. その他（具体的に）	0.1	0.1
9. 特になし	1.1	< 5.8
10. わからない、無回答	4.8	> 0.1

—他国への意識—

第19問 あなたは、つぎにあげるAからHについてそれぞれ、現在、どの国がもっともあてはまるとお考えですか。リストから1つずつお答えください。

	A. 親近感がある		B. 信頼できる	
	日本	韓国	日本	韓国
1. 中国	6.7	5.4	1.7	1.1
2. ロシア	0.4	0.9	0.3	0.5
3. 韓国（日本）	20.9	> 11.0	4.4	4.3
4. 北朝鮮	0.1	< 10.4	0.1	< 1.9
5. アメリカ	48.1	48.7	40.9	< 49.4
6. イギリス	1.9	< 5.7	7.0	< 9.8
7. フランス	1.6	< 3.3	2.5	< 5.4

8. ドイツ	2.7	2.8	7.1	7.3
9. インド	0.6	< 1.4	1.2	0.7
10. その他の国（具体的に）	0.5	0.4	0.3	0.2
11. あてはまる国はない	10.3	10.0	22.6	> 19.1
12. わからない、無回答	6.2	> 0.0	12.0	> 0.3

C. 安全保障面で頼りにできる

	日本	韓国	日本	韓国
1. 中国	1.4	1.8	14.7	> 9.4
2. ロシア	0.3	< 1.0	1.6	1.9
3. 韓国（日本）	1.0	1.7	0.4	< 4.9
4. 北朝鮮	0.1	< 2.7	68.6	< 72.4
5. アメリカ	75.5	< 83.0	4.6	4.9
6. イギリス	1.8	2.0	0.0	< 1.5
7. フランス	1.4	1.6	0.1	< 0.9
8. ドイツ	1.3	1.1	0.1	0.2
9. インド	0.2	0.0	0.1	0.2
10. その他の国（具体的に）	0.1	0.1	0.1	0.1
11. あてはまる国はない	8.8	> 5.0	2.8	3.6
12. わからない、無回答	8.2	> 0.0	6.9	> 0.0

E. 経済発展で重要である

	日本	韓国	日本	韓国
1. 中国	57.8	> 33.0	63.3	> 48.5
2. ロシア	0.8	< 2.7	2.5	2.4
3. 韓国（日本）	3.7	< 12.6	2.6	< 14.5
4. 北朝鮮	0.7	< 2.6	9.4	< 17.7
5. アメリカ	18.4	< 38.7	3.9	5.5
6. イギリス	0.5	< 2.4	0.3	< 1.8
7. フランス	0.5	0.8	0.2	< 1.1
8. ドイツ	1.1	1.7	0.3	0.5
9. インド	6.0	> 1.9	3.4	> 1.8
10. その他の国（具体的に）	0.1	0.0	0.0	0.0
11. あてはまる国はない	2.8	3.5	5.5	5.7
12. わからない、無回答	7.6	> 0.1	8.6	> 0.5

G. 文化交流を拡大したい

	日本	韓国	日本	韓国
1. 中国	20.3	> 13.9	5.3	> 1.5
2. ロシア	3.7	< 6.2	0.2	< 0.8
3. 韓国（日本）	18.1	18.4	3.2	< 22.8
4. 北朝鮮	0.3	< 3.7	0.1	< 1.9
5. アメリカ	7.5	< 20.9	11.9	< 24.0
6. イギリス	5.8	< 8.7	9.0	< 11.6
7. フランス	11.9	12.1	6.9	7.6
8. ドイツ	4.8	5.7	14.8	16.9
9. インド	5.0	5.4	3.4	> 0.9
10. その他の国（具体的に）	0.1	0.0	1.6	> 0.3
11. あてはまる国はない	10.5	> 4.8	25.3	> 11.2
12. わからない、無回答	12.0	> 0.2	18.2	> 0.5

H. 見習うべき

	日本	韓国
1. 非常に脅威がある	58.0	> 22.4
2. ある程度脅威がある	33.5	< 56.2
3. あまり脅威はない	4.8	< 19.4
4. まったく脅威はない	1.2	2.0
5. わからない、無回答	2.5	> 0.0

—北朝鮮の状況について—

第20問 北朝鮮の状況は、日本（韓国）にとってどの程度脅威があると思いますか。リストから、1つだけお答えください。

	日本	韓国
1. 非常に脅威がある	58.0	> 22.4
2. ある程度脅威がある	33.5	< 56.2
3. あまり脅威はない	4.8	< 19.4
4. まったく脅威はない	1.2	2.0
5. わからない、無回答	2.5	> 0.0

—北朝鮮に望む政治課題—

第21問 北朝鮮にあなたが望む政治課題は何ですか。リストから、いくつでもお答えください。（M.A.）

	日本	韓国
1. 核問題の解決	71.6	< 77.8
2. 日本人の拉致問題の解決	79.3	> 10.5

3. 韓国人の拉致問題や
韓国軍捕虜問題の解決 20.6 < 29.3
4. 朝鮮戦争などで離れ離れになった
離散家族問題の解決 22.9 < 46.6
5. 市場経済の導入などの経済改革 11.9 < 16.5
6. 食糧事情の改善 29.3 27.9
7. 強制収容所など北朝鮮内の
人権問題解決 25.9 > 17.2
8. 政治体制の民主化 38.2 > 22.0
9. 軍縮 28.9 > 13.8
10. その他（具体的に） 0.3 0.4
11. 特に望むことはない 0.8 < 2.4
12. わからない、無回答 2.2 > 0.0

—北朝鮮核保有への対応—

第22問 北朝鮮の核問題の解決のために、日本（韓国）はどのように対処すべきだと思いますか。リストから1つお答えください。

- | | 日本 | 韓国 |
|---|----|----|
| 1. 経済制裁や外交的圧力などを強め、
強硬姿勢でのぞむ 60.1 > 47.4 % | | |
| 2. 人権的・経済的支援など
融和的な姿勢でのぞむ 26.5 < 41.1 | | |
| 3. 特に何もしない 6.4 < 11.1 | | |
| 4. その他（具体的に） 0.2 0.1 | | |
| 5. わからない、無回答 6.7 > 0.3 | | |

—相手国の大衆文化への接触—

第23問 あなたは次にあげる韓国（日本）で制作されたAからFそれぞれについて、どの程度接していますか。リストから1つずつお答えください。

- | A. 韓国（日本）の映画 | 日本 | 韓国 |
|---|----|----|
| 1. よく見る（読む・聴く・する） 6.5 > 1.9 % | | |
| 2. たまに見る（読む・聴く・する） 22.7 24.0 | | |
| 3. ほとんど見ない
（読まない・聴かない・しない） 18.1 18.8 | | |
| 4. まったく見ない
（読まない・聴かない・しない） 51.7 55.0 | | |
| 5. わからない、無回答 0.9 0.3 | | |
| B. 韓国（日本）のアニメ | 日本 | 韓国 |
| 1. よく見る（読む・聴く・する） 0.1 < 7.4 % | | |
| 2. たまに見る（読む・聴く・する） 1.0 < 21.2 | | |
| 3. ほとんど見ない
（読まない・聴かない・しない） 10.1 < 16.1 | | |
| 4. まったく見ない
（読まない・聴かない・しない） 87.6 > 54.9 | | |
| 5. わからない、無回答 1.2 > 0.4 | | |
| C. 韓国（日本）のドラマ | 日本 | 韓国 |
| 1. よく見る（読む・聴く・する） 13.7 > 2.1 % | | |
| 2. たまに見る（読む・聴く・する） 34.1 > 13.3 | | |
| 3. ほとんど見ない
（読まない・聴かない・しない） 14.3 < 19.3 | | |
| 4. まったく見ない
（読まない・聴かない・しない） 37.1 < 65.1 | | |
| 5. わからない、無回答 0.7 0.2 | | |
| D. 韓国（日本）のマンガ | 日本 | 韓国 |
| 1. よく見る（読む・聴く・する） 0.1 < 4.6 % | | |
| 2. たまに見る（読む・聴く・する） 0.5 < 14.0 | | |
| 3. ほとんど見ない
（読まない・聴かない・しない） 8.2 < 16.1 | | |
| 4. まったく見ない
（読まない・聴かない・しない） 89.9 > 64.7 | | |
| 5. わからない、無回答 1.3 0.6 | | |
| E. 韓国（日本）の歌謡曲 | 日本 | 韓国 |
| 1. よく見る（読む・聴く・する） 1.6 1.8 % | | |
| 2. たまに見る（読む・聴く・する） 13.6 > 9.4 | | |

3. ほとんど見ない
（読まない・聴かない・しない） 13.2 < 19.8
4. まったく見ない
（読まない・聴かない・しない） 70.5 68.5
5. わからない、無回答 1.2 0.5

- | F. 韓国（日本）のゲーム | 日本 | 韓国 |
|---|----|----|
| 1. よく見る（読む・聴く・する） 0.1 < 2.1 % | | |
| 2. たまに見る（読む・聴く・する） 0.6 < 11.3 | | |
| 3. ほとんど見ない
（読まない・聴かない・しない） 6.7 < 15.0 | | |
| 4. まったく見ない
（読まない・聴かない・しない） 90.4 > 71.1 | | |
| 5. わからない、無回答 2.2 > 0.5 | | |

—相手国の大衆文化満足度—

第24問 あなたは、韓国（日本）で制作されたAからFそれぞれについて、どの程度満足していますか。リストから1つずつお答えください。接したことがない場合は、6をお答えください。

- | A. 韓国（日本）の映画 | 日本 | 韓国 |
|--------------------------------|----|----|
| 1. 満足 8.6 > 0.8 % | | |
| 2. どちらかといえば満足 16.7 > 8.9 | | |
| 3. どちらともいえない 16.1 < 26.8 | | |
| 4. どちらかといえば不満 1.3 < 6.8 | | |
| 5. 不満 0.3 < 1.1 | | |
| 6. 接したことがない 52.9 55.0 | | |
| 7. わからない、無回答 4.1 > 0.6 | | |
| B. 韓国（日本）のアニメ | 日本 | 韓国 |
| 1. 満足 0.1 < 4.6 % | | |
| 2. どちらかといえば満足 0.6 < 16.2 | | |
| 3. どちらともいえない 5.8 < 17.0 | | |
| 4. どちらかといえば不満 0.3 < 5.4 | | |
| 5. 不満 0.2 < 1.2 | | |
| 6. 接したことがない 87.1 > 54.9 | | |
| 7. わからない、無回答 5.9 > 0.7 | | |
| C. 韓国（日本）のドラマ | 日本 | 韓国 |
| 1. 満足 14.7 > 0.6 % | | |
| 2. どちらかといえば満足 24.4 > 5.9 | | |
| 3. どちらともいえない 16.7 18.9 | | |
| 4. どちらかといえば不満 1.6 < 7.6 | | |
| 5. 不満 0.4 1.0 | | |
| 6. 接したことがない 38.8 < 65.1 | | |
| 7. わからない、無回答 3.3 > 0.9 | | |
| D. 韓国（日本）のマンガ | 日本 | 韓国 |
| 1. 満足 0.0 < 3.0 % | | |
| 2. どちらかといえば満足 0.3 < 9.8 | | |
| 3. どちらともいえない 4.3 < 14.8 | | |
| 4. どちらかといえば不満 0.6 < 5.2 | | |
| 5. 不満 0.2 < 1.5 | | |
| 6. 接したことがない 88.5 > 64.7 | | |
| 7. わからない、無回答 6.0 > 1.0 | | |
| E. 韓国（日本）の歌謡曲 | 日本 | 韓国 |
| 1. 満足 3.1 > 0.5 % | | |
| 2. どちらかといえば満足 9.7 > 3.4 | | |
| 3. どちらともいえない 11.5 < 18.0 | | |
| 4. どちらかといえば不満 0.5 < 7.4 | | |
| 5. 不満 0.1 < 1.2 | | |
| 6. 接したことがない 69.9 68.5 | | |
| 7. わからない、無回答 5.2 > 1.0 | | |
| F. 韓国（日本）のゲーム | 日本 | 韓国 |
| 1. 満足 0.1 < 1.5 % | | |
| 2. どちらかといえば満足 0.3 < 5.9 | | |
| 3. どちらともいえない 4.1 < 12.6 | | |
| 4. どちらかといえば不満 0.3 < 6.4 | | |

- 5. 不満 0.2 < 1.7
- 6. 接したことがない 88.9 > 71.1
- 7. わからない, 無回答 6.0 > 0.8

一ドラマの影響—(該当者分母)

第25問【第23問-Cで「1.よく見る」,「2.たまに見る」という人】

韓国(日本)ドラマを見て, どう思いましたか。A~Dそれぞれについて, あてはまるものをリストから1つずつお答えください。

- A. 韓国(日本)の文化に対する評価が高くなった
- | | | |
|---------------|-----------|----------|
| | 日本 | 韓国 |
| 1. そう思う | 50.6 | > 25.3 % |
| 2. どちらともいえない | 34.5 | < 56.5 |
| 3. そうは思わない | 11.8 | < 18.2 |
| 4. わからない, 無回答 | 3.1 | > 0.0 |
| | 100%= 704 | 154 |

- B. 韓国(日本)のイメージがよくなった
- | | | |
|---------------|-----------|----------|
| 1. そう思う | 58.4 | > 29.9 % |
| 2. どちらともいえない | 31.7 | < 55.2 |
| 3. そうは思わない | 7.7 | < 14.9 |
| 4. わからない, 無回答 | 2.3 | 0.0 |
| | 100%= 704 | 154 |

- C. 韓国(日本)への興味が増した
- | | | |
|---------------|-----------|----------|
| 1. そう思う | 55.0 | > 45.5 % |
| 2. どちらともいえない | 31.1 | 37.0 |
| 3. そうは思わない | 11.6 | < 17.5 |
| 4. わからない, 無回答 | 2.3 | 0.0 |
| | 100%= 704 | 154 |

- D. 韓国(日本)の人と知り合いになりたいと思った
- | | | |
|---------------|-----------|--------|
| 1. そう思う | 18.6 | < 29.2 |
| 2. どちらともいえない | 42.5 | 43.5 |
| 3. そうは思わない | 36.5 | > 27.3 |
| 4. わからない, 無回答 | 2.4 | 0.0 |
| | 100%= 704 | 154 |

一好きな韓国(日本)の食べ物—

第26問 あなたは韓国(日本)の食べ物の中で, 何が好きですか。リストからいくつでもおっしゃってください。(M.A.)

- 日本
- | | |
|------------------|--------|
| 1. 焼肉 | 61.5 % |
| 2. キムチ | 61.4 |
| 3. 冷麺 | 29.3 |
| 4. ビビンバ(韓国式混ぜご飯) | 47.9 |
| 5. クッパ(韓国式雑炊) | 17.4 |
| 6. チゲ(鍋) | 22.7 |
| 7. プルコギ(味付け焼肉) | 14.0 |
| 8. ナムル(和え物) | 17.6 |
| 9. チジミ(韓国式お好み焼き) | 31.4 |
| 10. サムゲタン(参鶏湯) | 9.1 |
| 11. ユッケ(牛刺し) | 19.7 |
| 12. 韓定食(コース料理) | 4.5 |
| 13. マッコリ(韓国の醸造酒) | 7.0 |
| 14. その他(具体的に) | 0.5 |
| 15. 好きな食べ物はない | 8.3 |
| 16. わからない, 無回答 | 1.0 |

- 韓国
- | | |
|--------------|--------|
| 1. 天ぷら(揚物類) | 22.8 % |
| 2. 豚カツ(日本式) | 25.7 |
| 3. どんぶり(飯) | 9.6 |
| 4. ラーメン(日本式) | 12.2 |
| 5. さしみ(魚刺身) | 59.1 |
| 6. うどん, そば | 39.9 |
| 7. すし | 57.3 |
| 8. 焼き鳥(串焼き) | 10.2 |

- | | |
|-------------------|------|
| 9. おでん(日本式) | 12.3 |
| 10. すき焼(日本の鍋) | 5.8 |
| 11. お好み焼き | 5.2 |
| 12. 会席料理(日本コース料理) | 1.3 |
| 13. 日本酒 | 3.7 |
| 14. その他(具体的に) | 0.4 |
| 15. 好きな食べ物はない | 7.1 |
| 16. わからない, 無回答 | 0.0 |

一市民意識—

第27問 あなたの今の生き方について, リストから最も近いものを1つお答えください。

- | | | |
|--|------|----------|
| | 日本 | 韓国 |
| 1. 社会のために必要なことを考え, みんなと力を合わせ, 世の中をよくするように心がけている | 13.6 | < 25.6 % |
| 2. 自分の生活とのかかわりの範囲で自分なりに考え, 身近なところから世の中をよくするように心がけている | 46.2 | > 32.3 |
| 3. 決められたことには従い, 世間に迷惑をかけないように心がけている | 31.9 | 29.2 |
| 4. 自分や家族の生活を充実させることを第一に考え, 世間のことにはかかわらないよう心がけている | 4.8 | < 10.5 |
| 5. どれもいえない | 2.6 | 2.4 |
| 6. わからない, 無回答 | 0.8 | > 0.0 |

一自国の誇り—

第28問 あなたは, 自分の国のどんなところに誇りをもっていますか。リストからあてはまるものがありましたら, いくつでもおっしゃってください。(M.A.)

- | | | |
|-----------------------|------|----------|
| | 日本 | 韓国 |
| 1. 自然に恵まれている | 56.4 | > 51.7 % |
| 2. すぐれた文化・伝統をもっている | 64.5 | 63.8 |
| 3. すぐれた教育や技術をもっている | 44.3 | > 24.9 |
| 4. 信心深い人が多い | 12.2 | < 17.3 |
| 5. 国民の自由や権利が保障されている | 40.4 | > 21.8 |
| 6. 物が豊富でなんでも手に入る | 42.8 | > 15.0 |
| 7. 家族を大切にしている | 26.6 | < 46.0 |
| 8. 出身地(故郷)を大切にしている | 20.2 | 22.4 |
| 9. 治安がよい | 61.4 | > 12.5 |
| 10. 外国人を大切にしている | 9.5 | > 6.3 |
| 11. 国の将来を若い人が真剣に考えている | 4.3 | 3.8 |
| 12. その他(具体的に) | 0.1 | 0.4 |
| 13. 特になし | 1.4 | 2.3 |
| 14. わからない, 無回答 | 0.3 | 0.0 |

一ナショナリズム—

第29問 自分の国について, あなたの感じていることをおたずねします。次の3つの意見について, リストからお答えください。

- <日本に生まれてよかった>
- A. 日本(韓国)に生まれてよかった
- | | | |
|-------------------|------|----------|
| | 日本 | 韓国 |
| 1. そう思う | 84.9 | > 36.1 % |
| 2. どちらかといえばそう思う | 13.2 | < 54.7 |
| 3. どちらかといえばそう思わない | 0.7 | < 7.8 |
| 4. そうは思わない | 0.6 | 0.9 |
| 5. わからない, 無回答 | 0.6 | 0.5 |

<すぐれた素質>

- B. 日本人(韓国人)は他の国の人に比べて, すぐれた素質をもっている
- | | | |
|-------------------|------|----------|
| 1. そう思う | 45.6 | > 37.7 % |
| 2. どちらかといえばそう思う | 40.9 | < 53.7 |
| 3. どちらかといえばそう思わない | 7.0 | 7.9 |
| 4. そうは思わない | 3.1 | > 0.5 |
| 5. わからない, 無回答 | 3.4 | > 0.2 |

＜愛国心＞

C. 愛国心は国民のいちばん大切な条件である

1. そう思う 37.3 < 48.6 %
2. どちらかといえばそう思う 41.8 < 45.8
3. どちらかといえばそう思わない 12.6 > 5.2
4. そうは思わない 5.7 > 0.4
5. わからない、無回答 2.7 > 0.0

一生きがい一

第30問 あなたは、毎日の生活の中で、生きがいを感じているものがありますか。リストから1つだけお答えください。

日本 韓国

1. 家庭（家族とのだんらん、子供や孫の成長） 51.3 53.0 %
2. 仕事、家事、勉強 13.3 11.1
3. 趣味やスポーツ、旅行などの楽しみ 13.5 > 9.7
4. 友人や知人とのつきあい 9.8 8.7
5. 自分を向上させること 4.4 < 11.5
6. まわりの人や世の中の役に立つこと 3.3 > 1.7
7. 信仰 1.0 < 2.4
8. その他（具体的に） 0.3 0.0
9. 生きがいを感じているものはない 2.6 1.9
10. わからない、無回答 0.5 > 0.0

一理想の仕事一

第31問 あなたは、リストのどの仕事がいちばん望ましいと思いますか。リストから1つだけあげてください。

日本 韓国

1. 高い収入が得られる仕事 7.7 < 19.4 %
2. 失業のおそれがない仕事 18.5 > 10.6
3. 働く時間が短く、暇時間が多い仕事 2.4 < 17.4
4. 昇進や成功のチャンスが多い仕事 1.6 < 5.1
5. 自分の能力が思いきり発揮できる仕事 42.4 > 27.7
6. 仲間と楽しくすごせるような仕事 15.9 > 9.3
7. 世の中のためになる仕事 6.9 > 3.7
8. その他（具体的に） 0.0 0.0
9. 特にない 3.1 < 6.7
10. わからない、無回答 1.5 > 0.1

一人とのつきあい一

第32問 人とのつきあい方について、次のような甲、乙の二通りがあります。リストのように分けると、あなたが望ましいと思うのはどちらに近いですか。

甲：何でも相談したり、助け合えるつきあい

乙：お互いのことに深入りしないつきあい

日本 韓国

1. 甲 39.4 > 23.5 %
2. どちらかといえば、甲 28.7 < 51.7
3. どちらかといえば、乙 16.7 < 21.7
4. 乙 13.2 > 3.1
5. わからない、無回答 1.9 > 0.0

一頼りになる人一

第33問 A 仮に、あなたが人生に行きつまったとき、いちばん頼りになるのは誰ですか。リストから1つだけお答えください。

日本 韓国

1. 父 6.2 < 13.7 %
2. 母 13.5 11.8
3. 息子 8.9 9.5
4. 娘 4.0 > 1.7
5. 兄弟姉妹 7.2 > 5.0
6. 夫・妻 48.5 49.7
7. 親戚 0.7 0.5
8. 近所の人 0.3 0.5
9. 親しい友人 7.6 5.8
10. その他（具体的に） 0.4 0.7
11. 頼りにできる人はいない 1.9 1.1
12. わからない、無回答 0.7 > 0.0

B では、その次に頼りになるのは誰ですか。同じくリストから1つだけお答えください。

1. 父 9.7 9.1 %
2. 母 13.0 < 20.9
3. 息子 15.5 15.5
4. 娘 11.7 11.2
5. 兄弟姉妹 14.6 16.4
6. 夫・妻 11.1 > 6.2
7. 親戚 3.5 > 1.5
8. 近所の人 1.0 1.8
9. 親しい友人 12.8 13.4
10. その他（具体的に） 0.6 0.4
11. 頼りにできる人はいない 4.5 > 1.1
12. わからない、無回答 2.1 2.5

A+B 1番目+2番目

1. 父 16.0 < 22.8 %
2. 母 26.5 < 32.7
3. 息子 24.4 25.0
4. 娘 15.7 12.9
5. 兄弟姉妹 21.8 21.4
6. 夫・妻 59.6 55.9
7. 親戚 4.2 > 2.0
8. 近所の人 1.4 2.3
9. 親しい友人 20.4 19.2
10. その他（具体的に） 0.9 1.1
11. 頼りにできる人はいない 1.9 1.1
12. わからない、無回答 0.7 > 0.0

一生活目標一

第34問 人によって生活の目標もいろいろですが、リストのように分けると、あなたの生活目標にいちばん近いのはどれですか。1つだけお答えください。

日本 韓国

1. その日その日を、自由に楽しく過ごす 22.1 < 35.5 %
2. しっかりと計画をたてて、豊かな生活を築く 26.5 < 37.0
3. 身近な人たちと、なごやかな毎日を送る 43.3 > 20.8
4. みんなと力を合わせて、世の中をよくする 5.8 6.4
5. その他（具体的に） 0.3 0.1
6. わからない、無回答 1.9 > 0.2

一家庭について一

第35問 結婚や家庭についてうかがいます。AからDそれぞれの意見について、あなたのお考えに近いものをリストから1つずつお答えください。

A. 女性は結婚して子どもが生まれても、できるだけ職業を持ちつづけていたほうがよい

日本 韓国

1. そう思う 37.7 < 42.7 %
2. どちらかといえばそう思う 36.6 < 49.9
3. どちらかといえばそう思わない 16.6 > 6.2
4. そうは思わない 6.4 > 1.2
5. わからない、無回答 2.7 > 0.0

B. 女性は結婚したら、自分自身のことよりも夫や子どもなど家庭中心に生活したほうがよい

1. そう思う 15.8 > 10.5 %
2. どちらかといえばそう思う 35.2 < 40.7
3. どちらかといえばそう思わない 32.3 < 37.5
4. そうは思わない 14.4 > 11.2
5. わからない、無回答 2.3 > 0.1

C. 結婚しても、必ずしも子どもをもたなくてよい

1. そう思う 18.7 > 8.5 %
2. どちらかといえばそう思う 19.1 21.3
3. どちらかといえばそう思わない 25.9 < 36.8

4. そうは思わない 33.1 33.4
5. わからない, 無回答 3.1 > 0.0

D. 妻が働いていれば, 夫も家事や育児を平等に分担するのは当然だ

1. そう思う 48.0 > 34.5 %
2. どちらかといえばそう思う 36.3 < 54.2
3. どちらかといえばそう思わない 9.2 9.9
4. そうは思わない 4.6 > 1.0
5. わからない, 無回答 1.9 > 0.4

一男女のあり方 (男子の教育) 一

第36問 今かりにあなたに中学生の男のお子さんがいるとします。あなたはそのお子さんに, どの程度の教育を受けさせたいと思いますか。リストから選んでください。

- | | 日本 | 韓国 |
|--------------------|------|---------|
| 1. 中学まで | 0.5 | > 0.0 % |
| 2. 高校まで | 12.5 | > 0.6 |
| 3. 短大・高専 (専門大学) まで | 6.1 | > 1.2 |
| 4. 大学まで | 70.3 | 73.1 |
| 5. 大学院まで | 6.4 | < 22.1 |
| 6. その他 (具体的に) | 2.7 | 2.4 |
| 7. わからない, 無回答 | 1.4 | 0.6 |

一男女のあり方 (女子の教育) 一

第37問 では, かりに, 中学生の女のお子さんがいるとしたらどうでしょうか。同じくリストから選んでください。

- | | 日本 | 韓国 |
|--------------------|------|---------|
| 1. 中学まで | 0.6 | > 0.0 % |
| 2. 高校まで | 15.6 | > 0.7 |
| 3. 短大・高専 (専門大学) まで | 20.5 | > 1.8 |
| 4. 大学まで | 56.0 | < 75.6 |
| 5. 大学院まで | 3.1 | < 19.3 |
| 6. その他 (具体的に) | 2.5 | 2.3 |
| 7. わからない, 無回答 | 1.7 | > 0.3 |

一生活上の心配一

第38問 あなたは, 日常生活の中で, 次のようなことがどの程度心配ですか。A からHそれぞれについて, あなたの考えに近いものをリストから1つお答えください。

- A. 自分の老後
- | | 日本 | 韓国 |
|---------------|------|----------|
| 1. かなり心配である | 32.2 | > 23.6 % |
| 2. 少し心配である | 45.5 | < 50.4 |
| 3. あまり心配ではない | 18.0 | < 22.7 |
| 4. まったく心配ではない | 3.5 | 3.3 |
| 5. わからない, 無回答 | 0.8 | > 0.0 |

B. 自分や家族の健康

- | | | |
|---------------|------|--------|
| 1. かなり心配である | 32.4 | 33.1 % |
| 2. 少し心配である | 52.2 | 49.6 |
| 3. あまり心配ではない | 12.6 | 15.3 |
| 4. まったく心配ではない | 2.1 | 2.0 |
| 5. わからない, 無回答 | 0.7 | > 0.0 |

C. 育児や教育

- | | | |
|---------------|------|----------|
| 1. かなり心配である | 11.5 | < 17.2 % |
| 2. 少し心配である | 29.2 | < 33.7 |
| 3. あまり心配ではない | 25.1 | < 33.2 |
| 4. まったく心配ではない | 29.3 | > 13.3 |
| 5. わからない, 無回答 | 5.0 | > 2.6 |

D. 家族の介護

- | | | |
|---------------|------|----------|
| 1. かなり心配である | 30.3 | > 15.7 % |
| 2. 少し心配である | 41.3 | < 48.2 |
| 3. あまり心配ではない | 16.4 | < 30.3 |
| 4. まったく心配ではない | 9.4 | > 5.0 |
| 5. わからない, 無回答 | 2.6 | > 0.8 |

E. 失業やリストラ

- | | | |
|---------------|------|--------|
| 1. かなり心配である | 21.7 | 19.4 % |
| 2. 少し心配である | 28.4 | < 44.1 |
| 3. あまり心配ではない | 24.4 | 27.9 |
| 4. まったく心配ではない | 23.1 | > 6.7 |
| 5. わからない, 無回答 | 2.3 | 1.9 |

F. 年取や家計

- | | | |
|---------------|------|--------|
| 1. かなり心配である | 23.3 | 21.5 % |
| 2. 少し心配である | 43.1 | < 51.1 |
| 3. あまり心配ではない | 24.0 | 21.9 |
| 4. まったく心配ではない | 8.4 | > 3.7 |
| 5. わからない, 無回答 | 1.2 | 1.8 |

G. 仕事上のストレス

- | | | |
|---------------|------|----------|
| 1. かなり心配である | 11.3 | < 16.3 % |
| 2. 少し心配である | 30.4 | < 43.6 |
| 3. あまり心配ではない | 28.6 | 31.1 |
| 4. まったく心配ではない | 26.0 | > 6.0 |
| 5. わからない, 無回答 | 3.7 | 3.0 |

H. 地域の治安

- | | | |
|---------------|------|----------|
| 1. かなり心配である | 6.0 | < 14.1 % |
| 2. 少し心配である | 31.0 | 32.5 |
| 3. あまり心配ではない | 39.7 | < 44.4 |
| 4. まったく心配ではない | 22.0 | > 8.7 |
| 5. わからない, 無回答 | 1.3 | > 0.3 |

一職業一

第39問 あなたの職業は, リストのように分けると, どれにあたりませんか。1つだけ選んでください。

- | | 日本 | 韓国 |
|--|------|---------|
| 1. 農林漁業者 (家族従事者を含みます) | 3.1 | > 0.2 % |
| 2. 自営業者 (従業員9人以下。個人事業主, 家族従事者を含む) | 10.0 | < 23.6 |
| 3. 経営者 (従業員10人以上) | 0.6 | 1.0 |
| 4. 管理職 (従業員50人以上) | 3.3 | > 0.7 |
| 5. 販売・サービス職 (店員, 外交員, 理容師, ホームヘルパーなど) | 10.6 | 12.0 |
| 6. 技能・作業職 (工員, 職人, 運転手, 作業員, 保守点検員など) | 10.8 | > 4.7 |
| 7. 事務・技術職 (営業, 経理, システム技術者, 教員, 看護師など) | 17.0 | 18.2 |
| 8. 専門職, 自由業 (医師, 弁護士, 芸術家, 学者など) | 2.2 | 3.5 |
| 9. 主婦 (パートの有無にかかわらず 家事が主の女性) | 25.2 | > 20.6 |
| 10. 学生 (専修・各種学校生を含みます) | 1.2 | < 8.6 |
| 11. 無職 | 16.0 | > 6.7 |
| 12. その他 | 0.0 | 0.2 |
| 13. わからない, 無回答 | 0.1 | 0.0 |

一学歴一

第40問 あなたが最後に卒業した学校をリストから1つだけあげてください。現在在学中であれば, 在学中の学校をお答えください。

- | 日本 | |
|-------------------------|--------|
| 1. 中学校 (旧制小学校, 高等小学校) | 14.4 % |
| 2. 高等学校 (旧制中学校, 女学校) | 45.1 |
| 3. 高等専門学校・短期大学 (旧制高等学校) | 19.6 |
| 4. 大学・大学院 | 20.6 |
| 5. その他 (具体的に) | 0.1 |
| 6. わからない, 無回答 | 0.3 |

韓国

- | | |
|-------------|--------|
| 1. 小学校, 中学校 | 16.5 % |
| 2. 高等学校 | 38.6 |
| 3. 専門大学 | 12.3 |
| 4. 大学, 大学院 | 32.3 |

5. その他（具体的に）……………0.0
 6. わからない、無回答……………0.3

—訪問回数—

第42問 韓国（日本）に行ったことは何回ありますか。リストから1つだけお答えください。

—生活レベル—

第41問 かりに、日本人（韓国人）全体の生活程度を、リストのように分けると、あなた自身は、このどれに入ると思いますか。1つだけお答えください。

	日本	韓国
1. 上……………	0.8	1.4 %
2. 中の上……………	32.7	> 23.8
3. 中の下……………	48.8	< 53.9
4. 下の上……………	11.8	< 17.3
5. 下の下……………	3.1	> 1.1
6. わからない、無回答……………	2.7	2.5

	日本	韓国
1. 1回……………	11.8	11.6 %
2. 2～3回……………	5.5	6.3
3. 4～5回……………	1.5	1.2
4. 6回以上……………	1.8	> 0.6
5. 行ったことがない……………	78.3	80.3
6. わからない、無回答……………	1.1	> 0.0

サンプル構成（日本）

全体	性		年代					
	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1473人	658	815	139	227	249	267	316	275
100.0%	44.7	55.3	9.4	15.4	16.9	18.1	21.5	18.7

全体	男の年層			女の年層		
	20・30代	40・50代	60歳以上	20・30代	40・50代	60歳以上
1473人	159	226	273	207	290	318
100.0%	10.8	15.3	18.5	14.1	19.7	21.6

全体	職業												
	農林 漁業者	自営 業者	経営者	管理職	販売・ サービス職	技能・ 作業職	事務・ 技術職	専門職・ 自由業	主婦	学生	無職	その他	無回答
1473人	45	148	9	48	156	159	250	33	371	17	236	0	1
100.0%	3.1	10.0	0.6	3.3	10.6	10.8	17.0	2.2	25.2	1.2	16.0	0.0	0.1

サンプル構成（韓国）

全体	性		年代					
	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1,000人	492	508	182	216	228	177	109	88
100.0%	49.2	50.8	18.2	21.6	22.8	17.7	10.9	8.8

全体	男の年層			女の年層		
	20・30代	40・50代	60歳以上	20・30代	40・50代	60歳以上
1,000人	205	204	83	193	201	114
100.0%	20.5	20.4	8.3	19.3	20.1	11.4

全体	職業												
	農林 漁業者	自営 業者	経営者	管理職	販売・ サービス職	技能・ 作業職	事務・ 技術職	専門職・ 自由業	主婦	学生	無職	その他	無回答
1,000人	2	236	10	7	120	47	182	35	206	86	67	2	0
100.0%	0.2	23.6	1.0	0.7	12.0	4.7	18.2	3.5	20.6	8.6	6.7	0.2	0.0